

月報

1989 1 月号



シンガポール日本商工會議所

PSA CONTAINER YARD (PASIR PANJA)

〈 目 次 〉

(1989年1月号)

1989年新年随想

新年の御挨拶	(駐シンガポール日本国特命全権大使)	三宅 和助.....	1
バナナと切り干し大根	(株式会社住友銀行)	菊池 巖.....	3
南極に一番近い島での物造り	(シンガポール松下無線機器)	小出 富夫.....	5
アジア太平洋時代の幕明け	(株式会社東京銀行)	早川 博之.....	6
新年雑感	(第一勧業銀行)	高田 昌平.....	7
北から照るお日様	(日立エレクトロニック・デバイシズ (S)Pte Ltd).....	伊藤 久.....	8
初 夢	(日立造船シンガポール株式会社)	中尾 大三.....	10
新年随想	(ホテル・ニュー・オーターニ・ シンガポール)	中田 真人.....	11
赤道の夢—南洋クルーズ	(日本航空株式会社)	河野 裕.....	12
わが家の愛犬	(三菱商事株式会社)	吉崎 英輔.....	13
ゴルフ デス マッチ	(三井物産株式会社)	杉崎 彰.....	14
空ゆかば	(大阪商船三井船舶(シンガポール))....	光川 周治.....	16
カルチャー・ショック	(NEC エレクトロニクス・シンガポール)	国吉 敏彦.....	17
キコクシジョ	(新日本製鉄株式会社)	東垣内英哉.....	19
蟻、守宮、犬のことなど	(日商岩井株式会社)	稲垣 富雄.....	20
S Lの思い出	(岡本(シンガポール) 株式会社)	三森 和正.....	21
新年随想	(精工精密(新) 私人有限公司)	国方 恒雄.....	23

2度目のシンガポール駐在	(住友商事株式会社)	野口 滋.....	24
夢	((株)竹中工務店シンガポール 事務所)	梅谷 猛志.....	26
新年にあたって	(東京海上火災保険シンガポール(株))	小林 利雄.....	27
SSO募金奮戦記	(東芝シンガポール社)	川添 成章.....	28
新年随想	(横河電機新加坡私人有限公司)	長谷 匡二.....	30
アジアへの理解	(吉川ケミカルス・シンガポール(株))	安川 一夫.....	32
新年雑感	((株)シンガポール大丸)	鹿沼 雅義.....	33
円高定着後の直接投資動向	(野村総合研究所(シンガポール))	手柴 正気.....	35
経営研究委員会の報告	(ホテル・ニューオータニ・シンガポール)	池井 宗之.....	48
会員紹介	(ジャルコ・エレクトロニクス、日本ライナーシス テム、草津電機シンガポール)		51
理事会の動き			53
12月の主な経済記事			63
広 報 欄			71
資料案内			72
編集後記			74

新年随想

1989年

シンガポール日本商工会議所

新年の御挨拶

駐シンガポール日本国特命全権大使
三宅 和助

日本商工会議所会員の皆様、

1989年の年頭にあたり謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私が大使として当地に赴任してから早1年と10ヶ月近くになりますが、この間私はシンガポール経済の目を見張る発展振りをつぶさに観察して参りました。シンガポール政府及び国民の一丸となった真剣な努力により、4年前の不況を克服し一昨年8.8%の経済成長を遂げたのに続き、昨年も11%程度の経済成長が達成される見通しが強くなりました。10%以上の経済成長は1973年以来実に15年振りのものであります。

シンガポール経済を支える四本柱である国際金融、製造工業、運輸通信、観光サービスはいずれも順調に発展しております。特に、昨年日本からの直航便が増便になったのに伴い、日本人観光客の増加にはめざましいものがあります。また、日本からの直接投資も着実に増加しています。更に注目すべきことは当国は国際金融、製造業、運輸通信等の諸分野において東南アジアのリージョナル・センターとしての機能を果たしており、当国との経済関係は周辺地域にも裨益することです。政治的安定性、地理的条件、当国政府の諸政策等からみて、シンガポールにはまだまだ発展の余地があると言えます。

日本とシンガポールの関係は、基本的に極めて順調であります、それだけに皆様と力を合わせこの良好な関係を一層発展・維持させていくことが重要と考えます。この点、菊池会頭を始め日本商工会議所幹部と E D B との定期会合は極めて有用であり、今後とも政財界との一層の交流、意見交換を通じ両国の関係緊密化を更に図り、何か問題が起こる前にこれを未然に防ぐことが肝要と思います。

他方、私は、両国関係をより円熟したバランスのとれたものとするためには両国国民の草の根レベルにおける人的交流、文化交流の一層の発展が必要と考え、当国に赴任以来皆様の御協力を得て各種文化事業を実施して参りました。今後とも両国間の文化交流の発展のため私としましても一層の努力を払っていききたいと思いますので皆様方の御協力をお願いする次第です。

年の始めにあたりシンガポールの一層の発展と日本・シンガポール友好関係の更なる充実、そして皆様の御健勝と御多幸を心から祈念します。



バナナと切り干し大根

会 頭

株式会社住友銀行

支店長 菊池 巖

皆様、新年あけましておめでとうございます。

元旦になって「今年こそは」と考える時にいつも思うことがあります。

終戦間近い東京は連日B-29の来襲に見舞われました。カラ・カラ・シューという金属音と共に焼夷弾が雨のように降ってきました。“空襲警報発令”のサイレンが鳴ると、防空頭巾と枕をかかえて庭の片隅にある防空壕へ飛び込むのが日課でした。

我家もいつ灰になってしまうかわからない日々が続きました。子供だったからでしょうか死の恐怖はあまりありませんでしたが、口に入るものがなくて、空腹には参りました。交通手段が爆撃を受けたからでしょうか、東京の食料事情は極端に悪くなってきて、食料配給も跡絶えがちになりました。その頃から食卓に出る食べ物が、来る日も来る日も“切り干し大根の煮つけ”だけになりま

した。それも防空壕へかかえ込んだ防空頭巾や枕の中味になっていたものですから、連日連夜となるとおいだけで胸がつまるほどになりました。そんなある日、いつものように母が、卓袱台の上に“切り干し大根の煮つけ”を盛りつけた時に“母ちゃん、もう食えねえや”とお皿を投げつけました。痩せた母は、しばらく私の顔を見ていましたが、飛び散った、切り干し大根を一つ一つ拾い始めました。どこへぶつけることも出来ない悲しみがこみ上げて来ました。その時のことが昨日のように記憶に残っています。それからしばらく経ったある日、母が“お前バナナって食べたことあるかい”と一本のバナナをくれました。不思議な手ざわりと、恐る恐るむいた皮のあとから果実がでてきました。“うめえなあ”世の中にこんなうまいものがあるのかと思いました。あとは無我夢中でした。

母は、過労と栄養失調がたたったからでしょうか、問もなく不帰の人となってしまうましたが、臨終間際に、病氣見舞の籠の中にあるバナナを指して“あれはお前の分だよ”といったのが今でも耳の奥に残ってい

ます。きっと息子の嬉ぶ顔をと
て残しておいてくれたものでしょう。

その頃から、元旦になると“今年こそは、バナナが食べられますように”とお祈りをするようになりました。戦後四十数年、私が当時の母親の年令に近づき、息子達も一人前のことを言うようになり、世代が代わりました。

昔は季節物だった（と記憶していますが）バナナもいつしかお正月にも食べられるようになりました。私が、しみじみと新年にバナナを食べていると、息子共は“お父さん、あまりバナナを食べてばかりいると太るよ”と生意気なことをいいます。切り干し大根の煮つけを前にして涙ぐんだりすると“お父さん目にゴミでも入ったの”と無味乾燥なことをいいます。凡人の私には時折、困難な事態に直面してどうしようと思ひ悩むことがあります。 “あの当時の苦勞と比べたら、なんのなんの、バナナも食べられるし。”と考えると気持ちが落ち着きます。

シンガポール勤務の辞令をもらった時に、南国だからきっとバナナのなっている木があるにちがいないと思いました。予想通りでした。従っ

てシンガポールのゴルフ場や公園は私の夢を現実のものにしてくれるパラダイスです。従って今の私は幸いです。ただあの世の母に本場のバナナを心おきなく食べさせてあげられないのが残念です。シンガポールの2度目のお正月も“今年こそは”でなくて“今年も”おいしいバナナが沢山食べられそうです。

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

今年は、当会議所が発足して満二十年を迎えます。会員の数も5百社を越えるほどになりました。これは諸先輩及び皆様方のご尽力によるものです。日本国の発展とも相まって当会議所の役割も一段と重要さを増してきております。微力ながら当会議所の発展の為に頑張りますので、皆様方の変りませぬご支援をお願いいたします。

本年が皆様及びご家族の方々にとって良き年でありますよう心からお祈り申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

南極に一番近い島 での物造り

副会頭

シンガポール松下無線機器(株)

社長 小出 富夫

シンガポールも雨期になるといくらか涼しくなる。しかし、あまり涼しすぎても大変である。今回は、南極に一番近い島での物造りの話をしよう。

若い頃歌ったざれ唄に、「隣のオッサン、南極って暑かろうと海パン一丁で行かはった。」というのがあった。このように、南という字は何となく暑い感じがするから不思議である。閑話休題。

アルゼンチンのフェゴ島をご存知の方はあまり居られないと思う。南アメリカ大陸南端のマゼラン海峡の南にある島である、南極基地ではなく、人が通常に生活を営んでいる島では、南極に一番近い、南緯 54° 位の所にあり、日本の近くでいうと、樺太の北部に相当する極寒の地である。ちょうど、日本の反対側に位置する。

首都、ブエノスアイレスから南へ下ること 2,200km にフェゴ島のリオ

グランデという街がある。フェゴというのは、火、という意味で、その島に活火山があるため、或は、ある種の木の紅葉が火のようであるため、そのような名になったのだと云われている。

リオグランデとは、大きな河という意味で、中南米には多い地名である。なるほど大きな河口に人工的に作られた街である。あたりは平坦な砂漠であり、小さな灌木が、ところどころにへばりついている、という感じである。街の中には木が植えてあるが、年中吹いている強風のため、真直ぐに伸びることができず、途中から風下へ向って枝がなびいている。

何故そんな所に街を作ったかという、近くに海軍基地があり、それを維持するために人が要るのである。街をフリーゾーンにして各国の電機メーカーを呼び、人を集めて街にしたという訳である。この島ではもう一ヶ所ウスアイアという街があり、同じくフリーゾーンになっている。

日本の殆どの有力メーカーが進出している。当社もカラーテレビと音響製品を作っている。ここへ進出しないと、アルゼンチンで物を売れない仕組みになっているから仕方がな

い。従って、ここへ集まってくる人の給料は首都の3倍である。それでもなかなか来たがらない、それはそうだろう、何にも無いからである。いわば、出稼ぎの街であり、2〜3年で必ず帰ってしまう。ジョブホッピングだなどと呑気なことを云っているシンガポールは、まだまだ楽である。

部品も全くといっていい程現調できないから、外国から輸入している。当社からCKDとして送っているから関係があるような次第である。

こういう所へ行って見聞きしてみると、今更のようにシンガポールで仕事ができる有難さが身にしみる。



アジア太平洋時代の幕明け

理 事

株式会社東京銀行

支店長 早川 博之

明けましておめでとうございます。世界の主要経済圏を大きく三つに分けると、ECを中心とした西ヨーロッパ、アメリカ・カナダ・メキシコの北米と、日本やNIESを中心とした東アジア地域となる。話を少し大きくする意味で、東アジア地域にインド、中国などパキスタンより東にある諸国を加えてアジア圏として、1987年現在で三地域の経済力を比較すると次のようになる。

	アジア	北 米	ヨーロッパ
名目GDP (10億米ドル)	3,420	4,990	4,620
人 口 (百万人)	2,597	389	343
一人当たりGDP (1米ドル)	1,320	12,900	13,400
貿易量 (10億米ドル)	899	880	1,831

一人当たりのGDPではアジアはヨーロッパの10分の1にすぎないが、GDP合計では4分の3に達しており、かつ、近年のアジア地域の高い

新年雑感

理事

第一勧業銀行

支店長 高田 昌平

成長率からして、92年にはアジアのGDPは5兆8500億ドル程度になるものと予想されている。それは87年現在の北米やヨーロッパよりも大きな経済となる。勿論、一人当りのGDPでは2,000ドル程度にすぎず、名実ともに欧米先進地域並とはいかないが、日本に続きNIESが生まれ、さらにマレーシアやタイやインドネシアが急速に成長し、次々に優等生が育ってくる力強さを考えると、アジア地域は、92年頃には、間違いなくアジア太平洋時代の中核として、世界経済の成長の原動力になっているものと思われる。

日本国内の異常な物価高に示される“内に弱い円”の問題とか、朝鮮半島の南北分断の問題をはじめ、各国がかかえる政治・経済・外交上の諸問題は枚挙に遑がないし、北米や統合ECのブロック化の恐れなど前途は決して平坦ではない。しかし、ソ連のゴルバチョフ政権誕生を契機に動き出した東西関係の現実的展開に見るごとく、人類の叡知が機能し始め、諸問題が建設的に解決されて行くにちがいない。その前提があってこそ、真のアジア太平洋時代の幕明けが訪れることとなろう。

当地の労働者は、一般に流動的だと云われるが、その一つの理由はCPFにあると思われる。周知のとおり、CPFは給与の一定割合を雇用主を通じて積み立てるが、これはいわば、自分名義の預金口座のようなもので、将来一定年令になってこの「預金」を使えるようになって、自分の積み立てた元金と、政府が付けてくれる利息の合計額が使えるのみである。従って、いま、少しでも高い給与を得ることが出来れば、自動的に積立額も増え、必然的に将来の「退職金」も増えることになる。

日本のように勤続年数に応じて企業退職金が算定されるというのならともかく、当国では同じ企業に長くいるメリットは、この点をとらえるのではないのである。それでは、ジョブホップは、高い給料を払えない限り、やむを得ないものとしてあきらめるしかないのか。

基本的にはそうかも知れないが、

そう言い切ってしまうのも早すぎる気がする。ジョブホップされないような、何か魅力のある職場をつくる努力を放棄すべきではないであろう。特に日系企業では、優秀な人材ほど長く勤めるべきであるということを理解させたい。

先日或る雑誌の時評を続んでいて、我が意を強くした。その時評では、日本の企業の真に良質な部分の一つは、「職場における人材形成方式」であるとしている。時間をかけて巾広く実地の経験を積ませ、応用の利く本物の「技能」を身につけさせていくという日本の企業のやり方は、東南アジアでも通じる「本物」であるようだ。そのためには、「技能」の向上をよく評価し、その向上にふさわしい処遇を用意することも、平凡な常道であるが、重要である。

日本の企業の真に良質な部分を通じて成長した人材の増加は長い目で見れば、より日星の相互理解を深め、ひいては新しい雇用体系を生み出す足掛りとなるであろう。

本年もよろしくお願い申し上げます。

北から照るお日様

理 事

日立エレクトロニクス・デバイス(S)Pte Ltd
社長 伊藤 久

「あ、このタクシー、方角をまちがえている」運転手に注意しようと思いつながらまわりを見廻していると、見覚えのある建物が目に入って来て、狐につままれた気持ちのままちゃんと目的地に着いた。シンガポールに来てまもない頃、しょっちゅうこんな経験をした。車が角を曲る度に、もともと方向オンチ気味の私は、自分が今どこに居て、どちらへ向っているのか皆目見当がつかなくなるのだった。日本でドライブしていて不慣れな土地で方向を見失った時は、太陽の方向を見定めてどちらが南、どちらが東とおよその見当をつけることにしていて、大ていうまく行ったのに、それにしても不思議だなあ、とよくよく考えてみたらお日様が北から照っているのだ！生れてこの方、お日様に向って立てば左手が東、右手が西であり、お日様は必ず左の方から右の方へ動いて行くことに決っていて、それはあたかも「三ツが」

たとえば（「^シ四」ではなく）「^九九」
と反射的に出てくるのと同様に、頭
の中に理屈ぬきに焼きつけられている
のである。だからたとえ「お日様
が北から照っている」と気がついて
も「それなら東は右手だ」という答
は素直には出て来ない。何だか「宇
宙旅行をして帰って来ると年をとら
ない」という相対性理論の解説を聞
かされた時のように、何となく落着
かない気分のまま一抹の不安を感じ
ながら無理矢理丸呑みにするしかな
いのだ。車が角を曲る度に、「今は
〇月だからお日様は北に（南に）い
る。従って東は……」と考えていた
ら頭がおかしくなってしまう。それ
でなくてもシンガポールの道路は常
に曲りくねっているし、同じ道を走
っているつもりでもいつのまにか道
の名前が変わってしまう。まるで自然
と人工が共謀して方向感覚を狂わせ
ようと、あの手この手を尽している
ようだ。いっそ固苦しい理詰めはや
めて、シンガポールの道があるがま
まに覚えるのが唯一の正解らしい。
一旦そう割り切ると、シンガポール
の道はどこを通っても本当に美しい。
豊かに繁った見事な並木、きれいに
刈り込んだ芝生、色とりどりの花、

モダンな芸術的デザインが立並ぶ高
層ビル街から伝統的な雰囲気の中に
活気の溢れる商店街の喧騒、角を曲
る度に新鮮な発見が目飛びこんで
来る。考えてみたらこれは異文化と
接するのに、どんな姿勢で臨んだら
よいかという問題そのものではない
か、と思いついた次第である。



初 夢

理 事

日立造船シンガポール株式会社

社長 中尾 大三

工場の一隅で車えびの養殖を始め
て2年になります。水泳競技が行わ
れる50Mプールの大きさの池が
24面あるというと皆その規模にび
っくりされます。ここで働く人達は
水泳パンツ一枚でえさをやったり生
育状況を観察したりしておりますが
他方でヘルメットをかぶり作業服に
身を固めて船上で溶接の火花を散ら
している人よりずっと楽しそうに水
に馴れ親しんでいるという感じです。
“OK-La” “No Problem” “Never Mind” が
こちらの人の連発語ですがこれは南
方的な大らかさの言わせる言葉でこ
ちらがハッキリと教え指示した事は
素直に真面目によく守ってくれます。

天然自然に創造主である神様が育
てるえびを人間が真似をしようとい
うので色々と予期しない事が起りま
す。計画通り行かない事もあります。
目下えさを自家開発して色々研究中
です。

さて私の初夢はよいえさが完成し
我々の養殖技術が神様に少し近づい
た時シンガポールの南方に点在する
無人島に今の規模の何倍もの大きさ
の養殖池を建設する事です。

バンガローを作り週末遊びに来て
もらいましょう。レストランを作り
車えび食べ放題のメニューも用意し
ましょう。魚釣にあきたら昼寝しま
しょう。碁、麻雀も時間を気にせず
ゆっくり楽しみましょう。



新年随想

理事

ホテル・ニューオータニ・
シンガポール

総支配人 中田 真人

6年前、1月生れの私は前厄を前任地の博多で迎えました。皆に前厄は本厄より良くないので気を付けるよう云われておりました。正月明け、新年の挨拶に來た役員に突然呼ばれシンガポール転勤を云い渡されたのです。そして思わず“やはり前厄だ”と云って怒られました。と云うのは、このつい2ヶ月前に五年近く博多に勤務し、東京に帰りがっていた私に同じ役員から“当分博多だ”と云われたばかりでしたのでついそんな言葉が出てしまいました。そして8月に当地着任、翌1984年10月ホテル業最悪の時期に開業、まさに本厄になった訳けです。それに高温多湿の国で開業準備の忙しさとそのストレスで毎日よく眠れず又身体のダルさに悩まされ、本当に厄年を心身ともに実感しました。そして後厄も終り、気が付くとズボンのウェストがキック体重も5キロ増えておりました。これは、ストレスブトリと

毎日のビール、ホテルの食事が原因です。そこで背広を新調するより身体を背広に合せようとジョギング始めましたが三日坊主。ではと始めたのが朝8時から週二回のテニス。初日コーチと一対一で10分間もう目の前が真暗。やはり四十の手習はダメかと思いましたが気を取り直し、ともかく一年は続けて見ようと決心しました。それだけではやせないいで食事もあるべくベジタリアンフードを！時には会社のスタッフにも付き合せたり、仕舞には“メシに行こう”と云うと“すみません食事の約束がありますので”と逃げられる始末。でも決心通り一年で目的は達しました。よく考えてみるとコーチ代が背広代を上廻ってしまいました。何よりもお金に替えられないものが戻って來ました。不思議と身体のダルさは済え、よく眠れるようになりました。暑い国では汗を流し身体の新陳代謝を良くしなければならぬと云われた通りです。厄年を良い機会に心身の健康管理に気を付けるようになりました。新年に当り6年前を思い出し、心構えを新たに仕事にも健康にも努力をしようと思っております。

赤道の夢—南洋クルーズ

理 事

日本航空株式会社

支店長 河野 裕

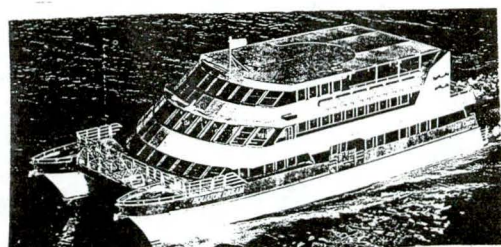
シンガポールは、東西文明の接合する多民族の都市国家である。コロニアル・エスラートあり、中華街・インド街・アラブ街あり、オーチャード・ロードのショッピング街あり、近代的な高層ビル街ありで、現状に於いても相当に魅力はあると思うのだが、更に欲を言うともう一つ南国情調を創る「海」を活かしきれていない。来星客が、赤道直下のシンガポールについて先づ脳裡に描くのは、矢張り「椰子の木陰に南十字星」の印象であり、「白い館に碧い海」の風物なのである。

私は1985年7月末に当地に着任した。シンガポールの経済に史上初めて赤信号が灯り初め、シンガポール政府が国内景気の回復と外資誘致に動き初めた頃であった。何とか、商売柄シンガポールへのリピーターを創りたい、と念じていた私は、シンガポールのイメージを現実化することに目標を絞った。その結果はNOLとの合弁事業「J & Nクルーズ」の設立によるクルーズ事業の展

開である。顧りみるにNOL首脳との基本的な構想と方針の確認は、タナメラ・カントリーとプラウ・スリブ（インドネシア）で双方に無理なく極めて友好的に運べたのだから、ゴルフとリゾートの効用は実に大きい。

現在、シンガポールでは政府主導でセントーサ島、テザルス島にビーチやリゾート・ホテルを中核としたレジャー施設の開発計画が進行中である。また、パタム島（インドネシア）やデサル（マレーシア）にも大規模なリゾート計画がある。クルーズの事業展開には、島々の開発が必要不可欠なので、これらの計画の具体化に大きな関心を寄せている。

シンガポールは、経済力を背景に観光地としての魅力も備えており、地理的、気象的に恵まれているだけに、今後更に大型客船の寄航地として発展すると思われるが、同時に観光客の嗜好の多様化に伴ない。近い将来アセアン諸国への「南洋クルーズ」の基地としても脚光を浴びる時が来るだろう。



我が家の愛犬

理 事

三菱商事株式会社

シンガポール支店長 吉崎 英輔

我が家の愛犬がシンガポールで死んだ。命日は昨年4月3日。名前はピコと云う。

シルキー・テリアという種類で、原産はオーストラリア。日本は主流がヨークシャー・テリアでこの種のテリアは殆どいない。

ロスアンジェルスで生まれて以来、我々家族と寝食を共にし、ロスアンジェルス—東京—シンガポールと三場所を経験した国際派である。芝生の多い快適な気候のロスアンジェルスから緑の少い東京へ連れて来られ、冬は寒いし、雪は降るして、先づ最初のカルチャー・ショック。次は暑い暑いシンガポールである。いい加減にしてくれと思ったに違いない。一般に犬は雷が大嫌いだが、このピコの雷嫌いは尋常ではない。雷が鳴ると部屋の隅へ行って震えている。此処の雷には参った等だ。毛が多いこの種類は此処の暑さもこたえたらろうと思う。

9才を過ぎていたので寿命かも知れないが、未だ未だ元気だった。慣れない気候で寿命を縮めたような気がして不憫でならない。

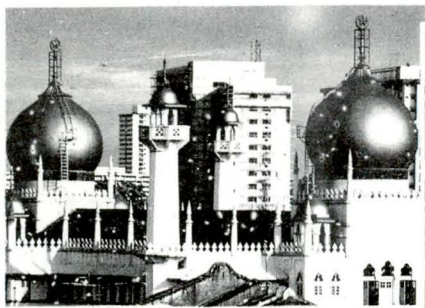
夜寝る時などは、私、或いは女房、それと娘のベッドと公平に渡り歩いて、隣にチョココンと寝ているのが常だった。こうなると正に家族の一員。子供が一人余計にいるのと全く変らない。二度にわたり高い航空運賃を払ったが、家族の一員だから当然の経費で全く気にならない。現在は家の近くの深大寺に葬られている。埋葬料も5万円だった。東京の自宅に近いので、墓参りも便利だ。

このピコの問題点は日本語を理解しないことだ。娘が米国時代に英語で芸を教えた為に、日本語では何もやってくれない。英語でもちょっと発音が悪いと通じないから始末が悪い。とにかく頭のいい犬だった。

私は食後よく消化剤にワカモトをのむ。今日は食べ過ぎたなと思うと、何とワカモトをねだりに来るのだ。食べ物にぜいたくなのには困った。菓子類など安いものだと見向きもしない。マグロは脂ののった中トロ以上でないと駄目という次第である。このピコが死んで約一ヶ月たった頃、

やはり淋しくて新しい犬を買い求めた。前の犬のイメージが忘れられず、同じシルキー・テリアにした。名前はコロと云う。未だ幼いパピーなので躰次第で今後どのようなになるかわからない。唯、何かにつけて前の犬と比較されるのです哀想だ。一つだけ、このコロの方が優れている点がある。シンガポール生れ故に、あのすさまじい轟音の雷には全く動じない。

今の処、兄貴分のピコにはこの一点を除き、足もとにも及ばない。年と共に利口になり、立派に成長することを期待してやまない。新年随想にふさわしい内容とは思えないが、去年の我が家の大きな変化だった為に、敢えてワンちゃん談義となった次第、悪しからず。



ゴルフ デス マッチ

理 事

三井物産株式会社

シンガポール支店長 杉崎 彰

最近、ゴルフは立派な格闘技であると思い始めました。

格闘技と言うのは、ボクシングや空手や柔道のように、襲ってくる敵に対してこちらも攻撃を仕掛ける競技の事です。誰も自分を攻撃してこないスポーツは、格闘技とは言いません。ゴルフで襲ってくるのは赤蟻ぐらいですから格闘する必要は無いのに、どうも馬鹿な私は無用の格闘をしている様です。それは丁度、襲っても来ない風車を敵と錯覚して格闘を演じて物笑いになった、あのドンキホーテと似ています。つまり、錯覚との格闘技なのです。

ティーアップして打とうとすると、ボールが「打ってもそれ程飛ばないよ」と言います。もうこれだけで平常心を失い、構えた体が一瞬固くなります。そうしてボールに向かって「お前はボールのくせに生意気だ。力一杯打ってやるから驚くな。あそ

このバンカーを越えて、あの辺りまで飛んで行く筈だ。あそこからだとツーンも可能だ。」と言ってやります。これが、錯覚なのです。肩と腕をコチコチにして、力一杯ボールをひっぱたくと見事にダフって、ボールは嫌々飛出し、いい加減な所に止まってしまいます。それはもう槍をかざして風車に突撃するドンキホーテを笑えぬ格闘振りです。

林に入ったボールが、「無理しないで真横に出しなよ」と、又生意気な口をききます。そこでドンキホーテは、「お前はボールだからそんな無責任な事を言っているが、真横に出したらスリーオン出来ないじゃないか。あの木と、あの木の間を狙って前に出せばボギーは固いんだぞ。お前のその小さな体なら、あの隙間を必ず抜けられるはずだ。前に打つ事に決めた。」と言います。これが錯覚なのです。打ったボールは、狙っても当たる筈のない木を直撃しカンカーンとどこかに飛んで行き、ドンキホーテの肝をつぶします。そこで初めて、木に向かって無用な格闘をしてしまった事を後悔し、もう自殺してしまいたい位の自己嫌悪に落ち込むのです。

ゴルフがこうした「錯覚との格闘技」で無くなれば、ずっと易しくなると思うのですが、それが仲々出来ません。

所で、ゴルフが本当に格闘技になる事が有ります。私の会社では毎年7月の土日を利用して、ゴルフ デスマッチと言う全員参加の格闘技をするのが、恒例になっています。それは2日間で、SICCのブキット、サイム、オールド、ニューの全コースをプレーして、スコアーを競う競技です。誰にもハンディキャップは与えられません。パープレーを越えた所から先は1打1ドルの罰金が課せられます。15人位が参加しますので、2日間のプレーを終わると罰金の合計は優に1000ドルを越えます。こうして集まったお金は、2日間をベストスコアーで回った人が全部取ってしまいますが、これだけではデスマッチは終わりません。2日間の死闘が終わると、参加者全員でそのまま宴会に移ります。宴会の費用は、皆の罰金を一人占めした悪い奴の払いです。宴会の時間は無制限です。一人でも未だ食べ足りない、未だ飲み足りないと言う人が居る限り悪い奴は奢り続けなければなりま

せん。皆は昼間罰金を取られた腹癒せで、疲れ果てた体に鞭打って少しでも元を取ろうと頑張りますから、費用はしめて1000ドル程度ではとても足りません。2日間に亙って全員が格闘し、疲れ果て、散財するゴルフ デス マッチは、当社の年中行事の一つです。

お正月休みにもこれをやろうとの声も有りますが、全員がドンキホーテになる無謀な格闘技は年に一回で十分だと言って止めさせています。



空 ゆ か ば

理 事

大阪商船三井船舶(シンガポール)

取締役社長 光川 周治

最近“空ゆかば”と題する本を今尚壮健な95才の或る夫人が自費出版された。昭和19年10月バタビア(現在のジャカルタ)空港に於ける日本軍用機の事故により一人の軍属が戦死したが白昼、しかも衆人環視下での出来事にも拘らず、軍属であった為か遺骨はもとより一片の遺品すら、家族に届かなかった事実を切々と訴えつつ、失くなられた長男の短かった一生をしのばれている本である。

著者の娘婿にあたる私の知人は昭和40年から3年間、シンガポールに在留され、その間何度がジャカルタに赴き、遺品収集の手探りを試みたが、当時のインドネシアは政治、経済、社会共混乱期にあった為、私的な行動は許されず結局何等の手がかりも得られなかったとの事である。

私はその本が自費出版されるに至った経緯を知り、又読むにつれて、

ひしひしと胸に迫って来る強い肉親愛と著者の氣力にいたく感銘を受けた。

戦争が惹起った悲劇は我々の脳裡から日々遠ざかりつつあるが、この95才の老夫人は如何なるお気持ちでめぐり来る新年を迎えられたのであろうかをつくづく考えさせられる今日此頃である。

不慮の戦死を遂げられた軍属は岩竹力と言う。



カルチャー・ショック

理 事

NECエレクトロニクス・シンガポール
プライベート・リミテッド
社長 国吉 敏彦

私がはじめてシンガポールへ足を踏み入れたのは、およそ10年前の1979年6月であったと記憶している。その時は朝の便でクワラルンプールを発ち、その日の夜行便で日本へ帰るというあわただしい旅であった。その時の印象としては“緑と高層ビルの共存する都市”というイメージが強く、外国には不慣れな小生にとっても一苦し海外勤務をすることになるなら—“シンガポールでなら何とか”という思いが残っていた。しかしサラリーマンとしての生活も、そろそろ最終コーナーに近くなろうとしている時になって、シンガポールへ赴任することになろうとは思ってもよらなかった。永年住みなれた日本を離れてこの地に住んでみて、言葉の違いを別にすればそれ程戸惑うこともない。少し車の運転が乱暴で、街に住む野犬？（首輪はついている）

も心なしか左右をよく見てから道を横断する様に思えることと、日本人以外の人達が沢山いるなと思うこと位である。

それに反して、遠く離れた所から改めて日本を眺めてみると、日本はずい分奇妙な国だなと思われることである。

オピニオンリーダーが見あたらない。何か問題が生じると、誰もが遅れじとばかり一つの方向に歩き出す。時にはマスコミがそれをあおりたてる。そしてある日突然に忘れてしまう。

オリンピックに惨敗した。いろいろ反省している様だが、競争の原理と公平さを忘れ、温情あふれる選手選考が最大の原因であることに気がついていないようだ。

政治の動きは極めて柔軟性に富み、行方がさだかではない。それでいて国民の多くは気にしている様にも見えない。

他人は、よその国の人達は、自分達をどう見ているのか、彼等は何を考えているのかを知らないし、又は知ろうとしていない様に見受けられる。だから自分達の主張・宣伝の仕

方が下手で外圧に弱いということになる。

そして政治家の不用意な発言につながることになる。それが外国の人達にどういう影響を与えることになるのかを深く考えずに。等々考えている中にふとこれも一種のカルチャーショックなのかなと思った。



キコクシジョ

理 事

新日本製鉄株式会社

シンガポール事務所長 東垣内 英哉

“帰国子女”という言葉はどうやら日本にしかないらしい。何度か当地滞在の外国人にこれに相当する表現があるかとたずねてみたが大てい“一体何のことか”と肩をすくめられることが多い。

確かにそうだろう。云うなれば有名な学校に入学し、有名なカイシャに入る（或いは入れる）ことを人生の目的にしているかの如き日本と個人主義をベースとし“如何なる職業についていかに楽しく人生を送るか”ということをしゅっ中考えている連中とは基本的に発想が異なるのは当然で“帰国子女”なる言葉も理解し難いだろう。

帰国して日本の学校に入り英語の先生より発音が良いため先生、生徒双方からイジワルをされたとか、そうされないために外国帰りをひた隠しにするとか、或いはワザと悪い発音で教科書を読みなどの暗い話は枚挙にいとまがない。しかしながら今

や“ボーダレスエコノミー”の時代と云われ我々の子供達も将来世界のどこで働くことになるのか分らぬ世の中になって来た。

事実、ようやく最近になって企業のビヘイヴィアにも変化の兆しが見え、留学生や“帰国子女”を積極的に採用する所も出て来たようだ。

21世紀は外国語のひとつ位自由に使えなくては仕事が出来ない世の中になっているかも知れない。

日本人のアイデンティティを維持しつつ外国及び外国語に精通するのは仲々大変なことだが、幸い外国に居る我々には又とないチャンスが与えられている。

帰国後の子供の就学が気になるのは当然だが、折角の与えられたチャンスを日本の受験勉強の延長線上で過してしまうのは惜しい。

今の子供達が将来、世界のどこに住もうと積極的に社会に参画し生計を立てて行けるような人間に育てやるのがこれからの親の責任ではないか、などと考える昨今である。

蟻、守宮、犬のことなど

理 事

日商岩井株式会社

シンガポール支店長 稲垣 富雄

フラットの18階に居住する私は、蟻を飼っている。蟻共は飼われているつもりは、なかろうが、毎食後、テーブルに散った食べかすを放置し、亦、蟻を目の仇にしている女中には、一匹たりと殺すなと命じ、更に廉くないアパートの一隅に、栖家を供していれば、相手の承諾に拘らず、飼っていると宣言してよかろう。

蟻は、勝手な命名だが、「クロスケ」と「気狂い蟻」の二種類で、同じ生活圏に、相互に無関心のごとく共存している。クロスケは、日本でもよく見掛ける体長1.5ミリ、触角をノンビリ動かしながら、一日中散策している農耕型で、姿も愛らしい。後者は、食性は別として、行動パターンは、狩猟型である。食物の存在を感知すると（嗅覚によるものか、第六感か、目下研究中）、蘭の植木鉢にある巣から、一斉に出て、見えぬ壁に突き当たる様に、目まぐるしく

方向転換しながら、食物にゆきつくまで、狂った様に走り廻る。これまでの観察では、3秒間に5〜6吋走る。体長1ミリ足らず、薄茶色でダニの様な姿ながら大した筋力である。

この狂い蟻の方に、親近感を持っている。広範囲を走り廻った挙句、ありつく好物が、削った鯉節の細片、薬味のネギの芯、漢方ノド薬のテーブル上の輪じみ等々とあつては、日頃の、我が身の仕事振りとも思い合わせて、身につまされる。

愛する老犬を、日本に置いて来た欠落感から、蟻共を可愛がってはいるが、蟻ではやっぱりつまらない。彼等も、吠えたり、喜んだりしているのだろうが、小さすぎて、声も聞えず、表情も分らぬ。

せめてヤモリでも栖んで呉れたらと願うが18階の我家には、滅多に訪問すらして呉れない。

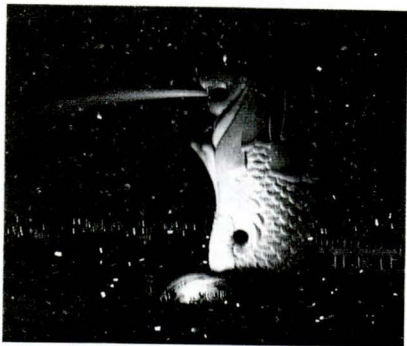
今の家内と初て世帯を持った、東京郊外の六帖一間のアパートに、ヤモリの親子が、先住しており、一ヶ月程一緒に棲んだのも、随分古い思出となった。それ以来、我々夫婦にとって、ヤモリは、親しい生き物となっているが、最近シンガポールの

ヤモリ人口が、減少しているのではと、危惧している。

政府はヤモリ族の人口動向についても、関心を持つ可きであろう。

街路樹の殺虫剤散布に、ゆき合うと、ヤモリの餌が減ってゆくと、心配になる。清潔なシンガポールの生活環境をエンジョイしながら、甚だ、勝手な願望ではあるが、当局が、コントロールを幾分ゆるめて、害虫やら、天敵やらが、身边にもう少し多く見られるエンバイロメントになればと思う。

初夢には、天井のヤモリに見護られて、昼寝をむさぼる、我が横に待る、老愛犬の姿など見たいものである。



SLの思い出

理事

岡本(シンガポール)株式会社

副社長 三森 和正

録音がモノラルからステレオに代った頃、私が最初買ったレコードは、ARGO社のドキュメンタリー録音“雷鳴下の蒸気機関車”だった。しのつく雨と雷鳴の下に、2-6-2ブレリー型と2-8-2ミカド型蒸気機関車がタンデムで、ブラストの音も勇ましく、カーブにフランジをきしませて目の前を駆け抜ける。気笛の響き、ジョイントの音、鳴りわたる雷鳴、折から遠くかすかに聞える救急車のサイレン。SLのマニアならずとも心からのスリルと迫力の味わえる録音である。この蒸気機関車や列車の音ほど、私のノスタルジアをかきたてるものは無い。

私の親戚は、いわゆる鉄道一家で伯父は当時の鉄道省に勤めて居り、中央線の建設に携わったとえい、今も残る小仏隧道の額は伯父の手に成ると云うのが自慢だった。父は若くして満州鉄道に渡り、後に朝鮮総督

府の鉄道局に移り、龍山の鉄道官舎で私が育った。官舎は龍山驛の機関区に近く、毎朝毎晩、気笛の音と共に暮していたので、近所の友人共々、鉄道マニアにならない方が不思議と云える。当時、日本の勢力は大陸をめざして居り、その輸送の動脈としての鉄道は戦略的にも重要で、満鉄のアジア号、鮮鉄のあかつき号が、特急列車の華として脚光を浴びていた。

御存知のように朝鮮の鉄道は広軌で車輛が大きく、それを牽く機関車も雄大で力強い。鮮鉄はその発祥が米系で、このレコードに出て来るミカド型も米国ボールドウィン機関車工場製の2-8-2だが、これは機関車の先輪が1対（2輪）動輪が4対、従輪が1対の配列を示す。日本ではこの動輪数（機関車の馬力と大きさを表す）をA B Cの如くアルファベットで呼び、C-62と云えば動輪3対、D-51は動輪が4対で、此のミカド型のDシリーズは国鉄でD-52、D-60、D-61、D-62まで造られて、急勾配線に威力を発揮したものである。

鮮鉄では、この動輪数を仮名呼び

としたので、ミカド型の動輪3対の機関車をミカサ、4対のものはミカシと呼んだ。鮮鉄のあかつき号は、米国のサウザンパシフィック鉄道からのモデルで、パシイ、パシニ、パシサのシリーズに入り動輪4対でパシシ、5対をパシコと云った。私の弟などはその走る音を聞いただけで、どの型の機関車かを言い当てたものである。

車窓にあの石炭を焚く煙と、蒸気のドラフトを聞かなくなってから久しい。しかしS Lの走りは、何故か我々人生の歩みとオーバーラップさせるものがある。長い坂道を重い荷を牽いて、汗を流し息をあえがせてそれでも「何だ坂、こんな坂」と駆け登って行く自分の姿を思い画くからだろうか。今でも旧満鉄のあじあ号の復活や、あのオリエント特急をD-51に牽かせようと云う試みがあるのもうなづける気がする。

ハイテクの波はこの愛すべき蒸気機関車をしりぞけ、電気機関車、ディーゼル車に発展し、既にリニアカーに移ろうとしている。我々も先端技術を駆使して、21世紀の工作機械をめざして日夜努力しているが、果

して科学や技術の進歩が、人間を幸せにしているのかどうかと、此の自然に恵まれた南の国に来ていて、思い返している此の頃である。



新年随想

理事

精工精密(新)私人有限公司

代表取締役社長 国方 恒雄

昨年の一月号月報で、「私、ゴルフを始めます。」と宣言してしまい、何とかしなくちゃと思いながら数ヶ月を過した。三月になってSICCのメンバーシップの名義が私名義に書きかえられ、レッスンの先生も、アルビン・リャウ氏に決って、とうとう動きがとれなくなった。正直な話、気が重かった。ところが、アルビンの指導のお陰で、次第にゴルフに興味が湧いてきた。あわせて、Dr.リャンにコースでの手ほどきを受けるようになって、実戦の面白味も感じるようになった。

最初の壁は「体力」だった。5月になってセントサのオールドへ、初めて出たが、アウトの八番で足がつってしまった。それも、ご丁寧に両足ともつったので、立ってられない。やっとの想いでクラブ・ハウスへたどりつき、インはギブアップして仲間の帰りを待つみじめさ。デブ

の上に運動不足だから、足が弱って
いたに違いない。ゴルフの練習より、
歩く練習が必要になった。初めて
18ホールまわれたのは七月半ばに
なってから。それから一度つた
が、九月以降は、足も丈夫になった。
足がつるのは、大汗をかくから塩分
が不足するためだと教わったので、
以降、競技中も塩分の補充に気を配
った。順れてくると、塩分補充も、
特にしなくて良くなった。歩くスピ
ードも、だんだん早くなってきた。
ゴルフの技術だの、スコアーだのは、
未だとても論ずる資格はない。何し
ろベストスコアーがハーフで56な
のだから、今のところは、SICCの
練習場で、黙々と打つのが応わしい。
出張が多くて、アルピンのレッスン
も受けられなくなったのは残念至極
だが、ゴルフのお陰で、いろいろな
人に知り合えたし、皆さんのゴルフ
談義にも、仲間入りさせてもらって、
本当に楽しい。シンガポールで何を
覚えたかと聞かれたら、「ゴルフ」
と言えるようになっただけでも嬉し
い。まわりの方々に心から感謝して
いる。今日もこれからゴルフのオケ
イコである。

2度目のシンガポール駐在

理 事

住友商事株式会社

シンガポール支店長 野口 滋

同僚の中に3度目、4度目の海外
駐在をしている者が珍しくないだけ
に、当地での初めての海外駐在を終
えて日本に帰った時、いずれ2度目
が来ることを覚悟して次回は「広く
て寒い国」にしてもらうべく根まわ
しをしたつもりだったが、どうも下
手な根まわしが逆手にとられたよう
で、図らずも2度目の当地駐在をす
ることとなった。

2度目にしてしかも当地を前回離
れたのがほんの3年前ということだ
だったので、誠に楽な転勤をさせても
らうことにはなったものの、一方新
しい任地に赴く者が経験する「むこ
うに行ったらどんなことになるかな
あ」という素朴にして甘美なる人間
的感慨を味わうことなく、まるで日本
駐在を終えてシンガポールに帰るよ
うな「どうもしまらない」気楽な想
いかして、何か少々損をしたような
気分になったものだ。

治安、衛生、食料、住宅、気候といった生活の基本条件から見て当地が世界屈指の駐在地であることは間違いない所だとは思いますが、さて実際に住んでみて刺激の少いこの土地での生活の単調さを実感してみると、「緑が美しくていいですねえ」という出張者の賞の言葉にききあきたある駐在員が、「たまにはこの緑が真黄色になるのを見たいものだ」とやけくそ気味につぶやいたセリフが、けだし名言のように思えてくる。

とはいうものの3年のうちにシンガポールもずい分と変わったものだと思う。

たとえば女性がチャーミングになったこと。

服装と化粧と髪の手入れのせいだと思うが、以前はおもわずふり返えさせられるようなことは失礼ながらまずなかったように思う。男族にはありがたいことだ。それに立派なゴルフコースが増えたこと。

SICCのNEWにタナメラのガーデンとセントーサのNEWが加ったことで、当地でのゴルフの魅力が2倍増にも3倍増にもなったのではなからうか。これら3コースの堂々た

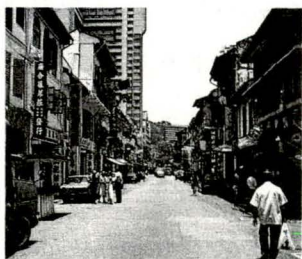
る風格は正に横綱級で、下手な横好きにもよだれの出る想いをさせてくれる。

このほかにもホテルの増えたことお祭りの増えたこと、地下鉄が出来たこと、日本料理店へ来るシンガポール人が増えたこと等々目につく変化だけでも数えあげればきりが無いが、世界に冠たるアジア・ニーズの一員シンガポールが日々装いを新たにするのはあたり前のことであって驚く方が、おかしいのかも知れない。ただひとつ、その中でも特筆に値するのは当国政府の一層の活性化ではないかと思う。新しい政府機関も増えているようだし、各政府機関が日替りメニューのように次々と新政策、新方針を打ち出し、こともなげにそれらを実施していくさまは正に壮観であり、税制改革に数年をついやしている国から来た者にとっては目のくらむ思いがする。

当地での生活の単調さを嘆く者にとっては、毎日の新聞をよく読んで当国政府の活躍ぶりを学習することが最大の覚醒薬となることうけあいだ。

2度目のシンガポール駐在も早や

1年がおぎようとしている。何はともあれ2度にわたり当地に住まわせていただき、仕事もさせていただいているということはありがたいことだと思う。シンガポールへのこの感謝の気持ちを忘れることなく、今度こそ少しでも当地の皆さんにお役に立つような仕事を残したいものだと思っている。



夢

理 事

株竹中工務店シンガポール事務所
所長 梅谷 猛志

早いものでシンガポールに赴任して6度目の正月を迎えた。

初めて当地で過ごした正月は、確かミニチュアの門松、鏡餅、お節料理で祝ったものである。今では感慨も薄く「1年の計は……」と考えている横で家内はスイカを食べている。本当に今日は元旦かと思う。

結局、新年の決意も定まらぬまま正月は過ぎてゆく。

それでも毎年かなわぬ夢を持つ
一つ 宝くじ

今年は当りそうな気がするがこの5年間、毎月買い求めては夢だけが膨らんでゆく。

5年分の夢だからかなりのものだ。外れる度に止めようと思うが、なかなかこの夢は止められない。

二つ ゴルフ

幸いにして好きなゴルフを月に数回プレイする機会に恵まれているが、腕前は悪くなる一方である。

優しいゴルフ仲間によれば下手だと
の事。時折出るファインショットを
常に出せたらと夢みている。まるで
プロの様に。

三つ 仕事

シンガポール経済が急速に回復して
いる中で、建設景気は1982年を
ピークに下降の一途をたどっている。
少々回復の兆しが見えるとは言って
も見通しは依然と暗い状況である。
2年前より日本国内に建設ブームが
訪れたごとく当地に神風が吹き荒れ
る事を夢みて数年経つ。

今年も三つの夢が現実になる事を
期待している。



新年にあたって

理 事

東京海上火災保険シンガポール(株)
取締役/総支配人 小林 利雄

海外生活も3度目になるが、海外
生活での楽しみの一つは、日本では
お会い出来ないような日本の各界の
名士にも会える機会があること、そ
して色々のお話をうかがうことが出
来るということである。

ところで昨年も講演会等で色々
のお話を聞く機会があったが、その中
で特に印象に残っている一つに次の
様な話しがあった。それはある講演
会で主催者が冒頭の挨拶の中で披露
された松下幸之助さんの話しである。
即ちある講演会で松下さんが常にゆ
とりのある経営をしなければならない
という話しをされたがこれに対し
聴衆の一人が、ゆとりのある経営を
するにはどうしたらよいか、それを
教えて頂きたいと質問をした由、こ
れに対し松下さんは、“ゆとりのあ
る経営をすることを常に念じること
ですな”と答られた。質問者自身も
また聴衆も、わかったような、わか

らぬような反応であったが、この話を聞き実行され成功されたのが、かの京セラの稲盛さんでありました、……というお話しである。

何やら禅問答のようであるが、仕事でも遊びでも常に念じていれば、これに対する方策も浮んで来て道が開けるということであろうか。

私ごとき凡人の身では、いくら念じてても良い知恵は浮んで来ないかも知れぬが、年のはじめに当りこの話を思い出し、今年は仕事にも、ゴルフ etc にも精々大いに目標を立て、その達成を念じ、実多い年にしたいと考えている次第である。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご活躍を心から祈念申し上げます。



SSO 募金奮戦記

理 事

東芝シンガポール社

社長 川添 成章

SSO とは、SINGAPORE SYMPHONY ORCHESTRA の略である。どちらかと云えば、カラオケ派の私が、何かのはずみでクラシック音楽団 SSO の運営委員に指名された。運営委員とは云っても、私に期待される主たるミッションは、日系企業からの募金である。当初は何から始めて良いか途方に暮れた時もあったが、結果的には皆様方の暖い御支援を得て、初年度は先づ先づの成果に終ったと、感謝して居る。

以下その途上の苦労話など、二つ三つ紹介したい。

- 1) 期待の相手が日系企業と云う事で、先づ総本山の JCCI にとび込んだ。昨年度の会頭始め幹部の方々に相談した処、趣旨は御理解頂けたが、JCCI には募金活動をしないと云う内規がある事が分り、最初から大きな壁につき当たった。そこで、潜越ながら私が「SSO を育てる会」

を作り、幹部の皆さんに個人として発起人になって頂いた。その他、日頃のゴルフ仲間にも声をかけた処、多数の御賛同を得て結局、発起人30人、実に三宅大使にも「名誉顧問」の御快諾を頂いて、予期せざる豪華な船出となった。この皆さんの後押しが、募金成功の大きな原動力の一つであったと感謝している。

2)寄附行為と云うのは元来㊦から㊧への「お恵み」であろう。日系企業もその㊦として期待されて居るのであるが、戦後以降の苦勞を知り、又、絶え間のない本社チャレンジに身を浸して居る我々には「我社は㊦」と云う実感はあまりない。ここ4〜5年、急に日本は㊦だと云われ始めたが、たとえ日本が㊦でも我社は例外だ。もし何処かに「お恵み」があるのなら、出すのでなく貰いたい位だ——と云うのが各社のホンネであろう。こう云う私自身が、そう思っている位であるから、私の説得は、さぞ迫力に欠けたものであったに違いない。それでも初年度に予想以上の成果が得られたのは、㊧が一

生懸命㊦のフリをして居る、その努力への同情票が可成り含まれて居たのではないかと思う。

3)パーティーやゴルフ場で、いつも多数の方々に御目にかかるが、相手から持出されない限り、面と向って私の方からは募金の御願はしない事に努めた。これは取越苦勞かも知れないが、私が「借金とり」の様に嫌われ、逃げられて、切角の友人を失う事になってはつまらないと思ったからである。一言、声をかけたら或は御協力頂いた方を、何人か逃したかも知れないが、これは私の我儘である。もしこの「或は」と云う方が居られたら是非そちらから声をかけて下さい。喜んで説明します。

百年以上の植民政策を通じて、英国はGIVEに数倍するTAKEを得た筈であるが、今なに旧植民国から友好、若くは尊敬の目で見られて居るのは、矢張りREASONABLEなGIVEが、特に文化面に於てあったからではないか？

我々は今、この国で植民活動をして居る訳ではないが、経済的な意義を

求めて居るのは事実であり、その様な事も参考にして良いのではないか？

もしそうなら、この募金活動は千里の道の一步ぐらいの意義はあるのではないか？——と自分を慰めている今日この頃である。

1989年も又、よろしく！



新年随想

理事

横河電機新加坡私人有限公司

取締役社長 長谷 匡二

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にとって、本年も良い年であります様、お祈り申し上げます。

昨年9月より着任して、早くも4ヶ月たち、はじめての正月をシンガポールで迎えました。もっとも12月31日から1月2日まで、会社の中堅メンバーとマレーシアへ合宿研修に出掛けましたので正確にはマレーシアでの正月という事になります。

実は、シンガポールでの生活は、今回が初めてではありません。当社の設立プロジェクトで10年以上前に、しばらく滞在していたことがあります。従って多少シンガポールの様子は解っている積りでしたが、この10年間の色々な大きな成長には、卒直に驚き、感心しているところです。

例えば、国づくりに対して、殆どのシンガポリアンが非常に積極的

で熱心である事や、大勢の能力ある女性の活躍ぶりには目をみはる思いです。

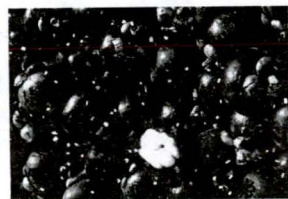
それにしても困った事は、退職率の高い事や採用の難しさで、この辺の違いがクロスカルチャーという事なのでしょうか。

何んといっても、お金が最重要という反面、肩書きがお金よりも大事というフィーリングは、今だによく解りません。

とはいえ、従業員の中には、良い人間関係や働き甲斐があれば、転職など考えないと言う人も多くおりますので、これらの人達を大切に育て、全従業員を教育していく事が、これからの大きな課題だと思っております。そして中堅クラスが中核となって部下を適切に指導していけば退職率も改善されると思っております。

当社がシンガポールで生産を開始してから13年たちましたが、その当時のメンバーが中堅となって働いており、今回初めて試みた前述の合宿研修を通じて、更に良い人間関係を築いてくれる事を期待している次第です。

秋や冬のピリッとした寒さがなつかしく、季節感のない毎日が一寸さびしく思いますが、無理して体をこわさない様にしながら、今年も有意義な活動を続けたいと思っています。



アジアへの理解

顧問

吉川ケミカルス・シンガポール(株)

代表取締役 安川 一夫

私は宗教をもつ人たちの精神生活を常にうらやましく思っている。

私は長年月、アジア各国に勤務し、アジアの人たちの宗教生活を、つぶさに見ることができた。そしてわかったことは、祈りをすませてモスクや教会堂から出て来る人たちの表情が、いかにもすがすがしく、心が浄化された喜びに満ちているということである。それは丁度日本人が風呂から上って気持よさそうにしている、あの表情なのである。

祈りは恐らく人びとの心のしこりを、もみほぐしてくれるものなのであろう。それは現実を超脱して神人合一の境地への到達—浄土を願い求めて神の祝福の中にある姿であろう。祈りを終った人たちの清らかな表情をみていると、それは信仰をもたぬ私にはとても到達できない世界であることがわかる。

そしてもう一つの驚きはアジアの

貧しい人たちが極貧の家に住む一方、神神の住むご殿があまりにも豪華にすぎることである。人びとはその寺院の中で祈りをささげ、現実の苦しみから逃れて愉悅のひと時をもつ。豪壮な寺院は国王や金持たちの喜捨によって建立され、人びとは建立者たちの信仰の深さと徳の高さを賞賛し、心から尊敬する。ここで貧富の差という社会的矛盾は静かに消えてゆき、それがアジア社会を停滞せしめる要因となってゆくのである。

それにも拘らず、私は貧しくても神に祈り神と共に生きる人たちをうらやましく思う。そして同時に、宗教体験をもたぬ私は、もっと踏み込んで、宗教に生きるアジアの人たちの生活感情と、その社会構造の内面に目を向けてゆかねばならぬことを反省する。私のアジア人たちへの理解の第一歩は、そこから始めねばならないと考えている。

新年雑感

監事

株シンガポール大丸

代表取締役 鹿沼 雅義

この9年間日本での正月を味わうことが出来ませんでしたので、正月をはじめそろそろ日本の季節の味を忘れてしまいそうです。

最初は季節がない、大味と思われた当国の一年間も、年を経るに従って少しずつそれなりの季節めいたものがあるように思われて来るようになりました。例えば……………

中国正月前の何かざわめいた街中、人・車の流れがジャムになる数日間、それが旧正前日の大晦日午後5時頃には市中のオーチャードロードをはじめ全ての道路から一転人氣がなくなり、何やらもの寂しい気分になされてくれる—そういった動と静とのコントラストを感じさせてくれる季節。そしてこのあたりから雨期が明けブーゲンビリア、蘭の花などが一斉に（と感じられる位に）色鮮やかに花数多く大きく開花して来る季節。何か生命力がついたように感じられる季節です。

5～6月南十字星が輝やく頃。丁度夜8時頃、家族団らん時に真南45°仰角に輝いてくる南十字星が見える時期。椰子の葉がくれに独り輝く十字の星座を見ながらしばしのくつろぎ。南国情緒満喫の季節です。そしてその頃の真昼間、さんさんと照り輝く太陽の下ゴルフ場のグリーン上でパッティングの構えに入った時、ぼたぼた額から落ちる汗をふきながらふと自分のかげが全くなっているのに気がつく季節でもあります。

7月、タイのドリアンがお目みえする頃。人ごみの中、シェントンウェイのビジネス街、デパートの中、誰かが食べた後まもなく歩いているのでしょ、どこからともなくただよって来るドリアンのにおい。高速道路を走行中、車内に何やら異様なにおいがあると思うと前方にドリアンを満載したトラックが走っていました。においの季節です。

11月、雨期入り。ゴルフ狂にとって最も気分のそがれる時です。ナイスショットノフェアウェイど真中！と思いきやフッと白球がかき消すように見えなくなりました。みづかり

ません。２ペナならずとも幾ばくかのボール代がかさむ季節でありますしょう。

年末。デパート勤務という職業柄、１日１１時間余、約１ヶ月間、店内を流れるクリスマスソングの同じメロディーの繰返しの中、アッ、又めぐって来たか！もう今年も終り。早いナァー。少し高目に設定した売上げ予算は達成出来るかな？。他のお店の景気はどうなのかな？……。小生にとってはいろんな意味で焦躁の季節です。

……とこんな具合いです。いかがでしょうか。これらの季節の間にいろんな事件がからみ、仕事をこなし又この度び１０度目の正月を迎えたわけです。本年は“へび年”です。どうか今年はこれら季節に良い事件のみがからみ、皆様ともども蛇の如く脱皮して、商業の神マーキュリーが持つ杖に巻きついたへびにあやかり新しい年の商売繁昌を願って止まない次第であります。



円高定着後の直接投資動向

野村総合研究所(シンガポール)

手柴 正気

1985年9月の「プラザ」合意を契機にした円高定着は、日本企業の多国籍化に多大な影響を与えている。本稿の目的は、この多国籍化に関して、若干の解説を試みることにある。

先ず、多国籍化の進展を示す資料として、大蔵省が公表する「主要国別海外直接投資届出実績」がある。表1は、この資料を84年度以降、まとめたものである。尚、原資料は、46カ国別に報告されているが、表1はスペースの関係で、19カ国に集約してある

表1 主要国別海外直接投資届出実績

(単位: 100万米ドル)

年度 国又は地域	84年度	85年度	86年度	87年度	88年度 上半期
米 国	3,360	5,395	10,165	14,704	11,430
カナダ	184	100	276	653	340
北米計	3,544	5,495	10,441	15,357	11,770
パナマ	1,671	1,533	2,401	2,305	717
ブラジル	318	314	270	229	233
ケイマン	1	132	930	1,197	1,180
バハマ	97	298	792	734	291
中南米計	2,290	2,616	4,787	4,816	2,861
インドネシア	374	408	250	545	304
香 港	412	131	502	1,072	732
シンガポール	225	339	302	494	406
韓 国	107	134	436	647	305
中 国	114	100	226	1,226	170
マレーシア	142	79	158	163	151
台 湾	65	114	291	367	192
フィリピン	46	61	21	72	28
タ イ	119	48	124	250	366
アジア計	1,628	1,435	2,327	4,868	2,659
英 国	318	375	984	2,473	1,985
西 独	245	172	210	403	172
仏	117	67	152	330	149
ルクセンブルグ	315	300	1,092	1,764	353
欧州計	1,937	1,930	3,469	6,576	4,046
アフリカ計	326	172	309	272	239
オーストラリア	105	468	881	1,222	1,108
大洋州計	150	525	992	1,413	1,242
中近東計	273	45	44	62	40
合 計	10,155	12,217	22,320	33,364	22,857

(出所) 大蔵省

また、この資料で言われている「海外直接投資」は、日本企業が海外に進出する際に、出資割合が相手企業の10%以上になった場合の株式投資などの証券投資や融資と定義されており、米国債などの購入は、直接投資と見做されていない。さらに、海外の不動産投資そのものの届け出義務はない。

したがって、この資料は、日本企業の多国籍化を正確に示していないものの、大勢を表していることに変わりはない。投資総額の推移を見ると、年度半ばから円高が定着した85年度は、対前年度比20%、86年度は同83%、87年度も同50%と、高い伸びを示している。特に、86年度の高い伸びは、新聞誌上で相い次いで報道された日本企業の大規模な海外進出計画と軌を一にしている。また86年末の日本企業の海外直接投資残高は、1,060億米ドルに達し、史上始めて1,000億米ドルの大台を越えた。この大台は、その国の企業が多国籍化の展開を一応達成した水準と言われている。米国は、1966年、英国は1973年に、それぞれ、この大台を記録している。86年度末の、日本の製造業の海外生産比率3.2%を考慮すると、90年度迄に、海外直接投資残高は2,000億米ドルを越えると予想されている。

野村総合研究所では、円高が始まった1985年9月以降、日本企業の多国籍化をより正確に把握するため、日刊新聞を中心とする公開情報から、日本企業の海外進出案件を収集している。ここでの海外進出の定義は、「事業目的のための資本の移転」により近いものとし、「融資」は含めない。また、「不動産の単なる購入」は、本来、直接投資と見做すべきでないが、報道記事の記述からは、不動産開発のための買収、合併、現地法人設立などの「本来の」直接投資と区別出来ないことが多いため、不動産に関する案件は、「購入」を含めて、進出案件に採録している。また、投資する側の企業の本業が金融業（銀行、証券、保険、リースなど）である場合は、採録していない。さらに、駐在員事務所の開設についても採録されていない。

表2から表10迄は、前述の海外進出案件を集約したものである。尚、

85年9月～12月の分と生産拠点の業種別分類は、紙面の都合上割愛している。また、88年9月～12月の分は現在集計中である。

これらの表から、以下の諸点を指摘できよう。

1. 米国への進出目的は、現地生産が第一位となっている。また、生産拠点の業種別分類で見ると、自動車と電気・電子で60%を占めている。①保護主義への対応、②円高で米国における生産コストが相対的に低下、が、これをもたらしたと考えられる。

また、NIES諸国からの追い上げに対して、非価格競争力を強化するため、従来の代理店を利用した販売体制から、自社独自の販売網とサービス体制の確立に注力しているのが明白になっている。さらに、88年に入り顕著になった動きは、従来の提携等による情報収集や製品開発から、現地頭脳を積極的に利用する製品開発体制確立である。当然のことながら、製品開発から販売迄の体制が整備されれば、自律度の高い現地経営が可能になる。企画統括を目的とした進出は、これに対応した動きと見られる。

2. アジアへの進出目的は、やはり現地生産が第一位となっている。その進出件数は、米国を凌駕しているのみならず、NIESとASEANに集中しているのが特色となっている。

これら諸国の国内市場の大きさを考慮すると、日本企業が部品供給や輸出の生産基地として、これらの諸国を積極的に利用していることが改めて確認できる。また電気・電子が幅広く進出している一方、ASEAN諸国の自動車産業が未熟であることを反映して自動車は韓国と台湾に限定されている。

特にASEANの中には、雇用の確保と外貨獲得が急務となっている国がある。これらの国では、従来の政策を変更し、外資誘致に積極的に取り組んでおり、日本企業の生産基地を求めたASEANへの進出は今後も高水準に推移しよう。

3. 欧州への進出件数は、米国、アジア程多くない。かなり以前から日本製品の輸入を規制していたことと、円が欧州通貨に対して著しく強くなら

なかったことが、現地生産を目的とした進出件数が少ない原因と考えられる。しかしながら、米国と同様、非価格競争力強化を目的とした販売拠点とサービス拠点の整備には本格的に取り組んでいるのが解る。

1992年E.C統合のより具体的なプログラムが明らかになれば、現地生産を目的とした進出が増加する可能性は極めて大きいと言えよう。

最後に、日本企業の多国籍企業化は、生産拠点の海外ネットワーク整備が進行中の段階にあり、進出先で自律度の高い企業経営が可能になるには、未だ時間が必要であると思われる。また、それに至る過程は、欧米の企業が歩んだ道とも異なるものとなろう。ただし、進出先で無用な誤解を避ける点からも、日本企業の経営理念が明確になされることが、要請されるであろう。

表2 わが国企業の海外活動動向（米国：州別・目的別）

（単位：件）

順位	州	現地生産	販売・サービス	建設	不動産	資 産	提携等	その他	合計
1	カリフォルニア	29	41	5	13	0	11	6	105
2	ニューヨーク	10	19	1	9	1	4	4	48
3	イリノイ	18	16	1	1	0	5	1	42
4	ミシガン	17	14	0	0	0	5	2	38
5	オハイオ	15	5	0	0	0	0	0	20
5	ニュージャージー	3	12	0	1	0	1	3	20
7	ケンタッキー	16	1	1	0	0	0	0	18
8	ワシントン	5	7	0	0	1	3	1	17
9	インディアナ	15	0	0	0	0	0	0	15
10	テキサス	6	3	0	1	2	2	0	14
11	ジョージア	12	0	0	0	0	1	0	13
12	ペンシルバニア	7	2	0	0	0	3	0	12
13	ハワイ	1	6	2	2	0	0	0	11
14	コネチカット	2	4	0	0	0	4	0	10
15	マサチューセツ	2	5	0	0	0	1	1	9
15	デラウェア	4	2	1	1	0	0	1	9
17	テネシー	5	1	0	0	0	0	0	6
17	ノースカロライナ	4	0	1	0	0	0	1	6
19	オレゴン	5	0	0	0	0	0	0	5
20	アラバマ	4	0	0	0	0	0	0	4
20	バータニア	3	0	0	0	0	1	0	4
	その他	11	2	1	0	0	6	1	21
	合 計	194	140	13	28	4	47	21	447
	シエア	(43.4)	(31.3)	(2.9)	(6.3)	(0.9)	(10.5)	(4.7)	(100.0)

（注） 期間：86年 1月～86年12月 新聞発表ベース

「その他」とは、主としてR & D、ベンチャービジネスなど

表3 わが国企業の海外活動動向（アジア・太平洋；国別・目的別）

（単位：件）

順位	国及び地域	現地生産	販売・サービス	建設	不動産	資源	提携等	その他	合計
1	台湾	81	9	1	0	0	21	1	113
2	韓国	49	6	0	0	0	43	3	101
3	シンガポール	25	12	0	1	0	1	4	43
4	香港	11	11	2	1	0	1	2	28
4	インド	11	0	0	0	0	16	1	28
6	インドネシア	14	2	0	0	7	4	0	27
7	マレーシア	16	3	1	0	0	5	0	25
8	タイ	8	5	1	0	2	6	0	22
9	オーストラリア	5	6	4	1	1	0	0	17
10	ニュージーランド	3	3	0	0	1	0	0	7
11	トルコ	3	0	1	0	0	0	0	4
11	フィリピン	4	0	0	0	0	0	0	4
13	ベトナム	1	1	0	0	0	1	0	3
13	グアム	0	1	2	0	0	0	0	3
15	パキスタン	2	0	0	0	0	0	0	2
15	スリランカ	1	0	0	0	0	1	0	2
15	ネパール	0	0	0	0	2	0	0	2
15	サイパン	0	2	0	0	0	0	0	2
19	ビルマ	0	0	0	0	0	1	0	1
	合計	234	61	12	3	13	100	11	434
	シエア	(53.9)	(14.1)	(2.8)	(0.7)	(3.0)	(23.0)	(2.5)	(100.0)

（注） 期間：86年1月～86年12月 新聞発表ベース

「その他」とは、主としてR&D、ベンチャー・ビジネスなど

表4. わが国企業の海外活動動向（欧州；国別・目的別）

（単位：件）

順位	国及び地域	現地生産	販売・サービス	建設	不動産	資 源	提携等	その他	合 計
1	イギリス	25	18	0	2	1	8	4	58
2	西ドイツ	21	17	1	0	0	14	1	54
3	フランス	13	7	0	0	0	4	2	26
4	スペイン	10	5	0	0	0	4	1	20
5	イタリア	9	2	0	0	0	4	0	15
6	オランダ	2	9	0	0	0	2	0	13
7	スウェーデン	0	3	0	0	0	2	1	6
8	ベルギー	2	1	0	0	0	1	1	5
9	オーストリア	3	1	0	0	0	0	0	4
10	ポルトガル	2	1	0	0	0	0	0	3
10	スイス	0	3	0	0	0	0	0	3
10	ソ連	0	0	0	0	0	1	2	3
13	アイルランド	2	0	0	0	0	0	0	2
13	ブルガリア	0	1	0	0	0	1	0	2
13	チェコスロバキア	0	0	0	0	0	2	0	2
16	ルクセンブルグ	0	1	0	0	0	0	0	1
16	デンマーク	0	1	0	0	0	0	0	1
16	フィンランド	0	1	0	0	0	0	0	1
16	ハンガリー	0	0	0	0	0	1	0	1
16	東ドイツ	0	0	0	0	0	1	0	1
	合 計	89	71	1	2	1	45	12	221
	シエラ	40.3	32.1	0.5	0.9	0.5	20.4	5.3	100.0

（注） 期間：86年1月～86年12月 新聞発表ベース

「その他」とは、主としてR & D、ベンチャービジネスなど

表5- わが国進出企業（非金融機関）の米国州別・目的別進出件数

（単位：件）

順位	州	現地生産	販売・リース	不動産	資 源	提 携	そ の 他	合 計	うち買収
1	カリフォルニア	4 1	4 8	3 6	0	1 6	1 7	1 5 8	1 6
2	ニューヨーク	4	3 4	1 6	0	7	6	6 7	3
3	ミシガン	2 0	9	0	0	4	4	3 7	3
4	オハイオ	1 9	4	0	0	6	2	3 1	3
5	イリノイ	1 2	9	1	0	4	3	2 9	3
6	インディアナ	2 0	3	0	0	2	0	2 5	0
7	ハワイ	3	4	1 4	0	0	2	2 3	3
8	ニュージャージー	7	6	1	0	2	4	2 0	0
9	テネシー	1 4	0	0	0	0	2	1 6	1
1 0	ペンシルバニア	1 0	2	0	0	3	0	1 5	0
1 1	ケンタッキー	1 3	0	0	0	0	1	1 4	1
1 2	テキサス	5	2	0	1	5	1	1 4	1
1 3	オレゴン	9	2	0	0	1	1	1 3	3
1 3	ジョージア	1 0	1	1	0	0	1	1 3	1
1 5	ノースカロライナ	9	1	1	0	0	0	1 1	2
1 6	マサチューセッツ	2	2	0	0	3	3	1 0	3
1 7	デラウェア	1	4	1	0	1	2	9	1
1 7	バージニア	5	2	1	0	1	0	9	1
1 9	ワシントン	2	2	1	0	0	3	8	3
1 9	コネチカット	3	0	1	0	4	0	8	0
1 9	メリーランド	1	1	0	0	0	6	8	0
2 1	コロラド	2	1	0	0	1	3	7	3
2 2	ミネソタ	0	1	0	0	4	1	6	1
2 3	アリゾナ	2	1	0	0	1	1	5	0
	そ の 他	3 6	1 0	5	3	1 7	1 7	8 8	6
	合 計	2 5 0	1 4 9	7 9	4	8 2	8 0	6 4 4	5 8
	シ ェ ア	(38.8)	(23.1)	(12.3)	(0.6)	(12.7)	(12.4)	(100.0)	

（注） 期間：87年 1月～87年12月 新聞発表ベース

表6 わが国進出企業（非金融機関）のアジア・太平洋州国別・目的別進出件数（単位：件）

順位	国及び地域	現地生産	販売・サービス	不動産	資 源	提 携	そ の 他	合 計	うち買収
1	台湾	1 0 2	2 6	3	0	2 9	7	1 6 7	4
2	韓国	6 7	1 3	0	0	5 5	4	1 3 9	0
3	タイ	7 1	6	1	0	9	4	9 1	0
4	シンガポール	4 2	9	2	0	2	4	5 9	0
5	オーストラリア	1 1	1 7	1 3	5	6	5	5 7	7
6	香港	1 8	2 0	5	0	4	6	5 3	2
7	マレーシア	2 0	2	1	2	2	2	2 9	0
7	インドネシア	1 7	5	1	1	3	2	2 9	1
9	インド	1 3	0	0	0	1 3	0	2 6	0
1 0	フィリピン	7	2	0	0	2	1	1 2	0
1 1	ニュージーランド	1	6	0	2	1	0	1 0	1
1 2	グアム	0	3	5	0	0	1	9	0
1 3	サイパン	0	4	1	0	0	0	5	0
1 3	パキスタン	3	0	0	1	1	0	5	0
1 5	トルコ	0	1	1	1	0	0	3	0
1 6	ベトナム	1	0	0	0	0	0	1	0
1 6	ブルネイ	0	1	0	0	0	0	1	0
	合 計	3 7 3	1 1 5	3 3	1 2	1 2 7	3 6	6 9 6	1 5
	シ ェ ア	(53.6)	(16.5)	(4.7)	(1.7)	(18.2)	(5.2)	(100.0)	

（注） 期間：87年 1月～87年12月 新聞発表ベース

表7

わが国進出企業（非金融機関）の欧州国別・目的別進出件数

（単位：件）

順位	国及び地域	現地生産	販売・サービス	不動産	提携	その他	合計	うち買収
1	イギリス	45	23	8	19	11	106	7
2	西ドイツ	15	18	0	15	6	54	2
3	フランス	17	10	3	5	3	38	2
4	イタリア	3	7	0	4	3	17	0
5	オランダ	2	1	0	0	13	16	0
6	スペイン	8	4	0	3	0	15	1
7	ベルギー	1	2	0	2	0	5	0
8	スイス	0	0	0	1	3	4	0
8	ハンガリー	4	0	0	0	0	4	0
10	スウェーデン	0	2	0	1	0	3	0
10	アイルランド	2	1	0	0	0	3	0
10	ソ連	1	1	0	0	1	3	0
13	ルクセンブルク	1	1	0	0	0	2	1
13	チェコスロバキア	0	0	0	2	0	2	0
15	ポルトガル	1	0	0	0	0	1	0
15	ギリシャ	0	0	0	1	0	1	0
15	フィンランド	1	0	0	0	0	1	0
15	オーストリア	0	1	0	0	0	1	0
	合計	101	71	11	53	40	276	13
	シェア	(36.6)	(25.7)	(4.0)	(19.2)	(14.5)	(100.0)	

（注） 期間：87年1月～87年12月 新聞発表ベース

表8 日本企業（非金融機関）の北米州別・目的別進出件数

（単位：件）

	生産拠点	販売拠点	サービス拠点	研究開発	企画統括	資源開発	不動産開発	計
カリフォルニア	21	11	12	4	0	0	16	64
ニューヨーク	4	4	6	2	1	0	2	19
イリノイ	10	3	1	1	0	0	1	16
ジョージア	13	0	1	0	0	0	2	16
ニュージャージー	8	3	1	2	0	0	0	14
オハイオ	10	2	0	2	0	0	0	14
ミシガン	8	1	1	1	0	0	0	11
テネシー	7	0	2	0	1	0	0	10
デラウェア	2	0	2	0	3	0	0	7
ハワイ	1	0	0	0	0	0	5	6
マリチューセッツ	2	1	1	1	0	0	0	5
ワシントン	4	0	0	0	0	0	1	5
ペンシルバニア	3	1	1	0	0	0	0	5
ケンタッキー	2	0	2	0	0	0	0	4
ノースカロライナ	4	0	0	0	0	0	0	4
インディアナ	4	0	0	0	0	0	0	4
バージニア	3	0	0	0	0	0	1	4
コネチカット	2	0	0	1	0	0	0	3
テキサス	2	0	1	0	0	0	0	3
メリーランド	1	0	0	0	0	0	2	3
アラバマ	2	0	0	0	0	0	0	2
ミズーリ	1	0	1	0	0	0	0	2
ミネソタ	2	0	0	0	0	0	0	2
フロリダ	0	0	0	0	0	0	2	2
リウスカロライナ	2	0	0	0	0	0	0	2
その他	22	2	3	1	2	2	1	33
アメリカ計	140	28	35	15	7	2	33	260
カナダ	6	5	1	0	0	0	2	14
北米計	146	33	36	15	7	2	35	274
シェア	53.3	12.0	13.1	5.5	2.6	0.7	12.8	100.0

（注）新聞発表ベース、期間：88年1月～6月

表9 日本企業（非金融機関）のアジア・大洋州地域別・目的別進出件数

（単位：件）

	生産拠点	販売拠点	サービス拠点	研究開発	企画統括	資源開発	不動産開発	計
タイ	46	2	4	0	0	0	1	53
台湾	14	2	12	2	0	0	0	30
中国	16	1	6	1	0	1	2	27
韓国	22	1	1	1	0	0	0	25
シンガポール	15	1	6	0	2	0	0	24
オーストラリア	8	1	5	0	1	3	4	22
香港	9	2	4	0	2	0	3	20
マレーシア	13	1	0	0	0	0	0	14
インドネシア	3	1	2	0	0	2	0	8
グアム	0	0	0	0	0	0	6	6
フィリピン	4	0	0	0	0	0	0	4
ニュージーランド	0	0	2	0	1	0	0	3
インド	1	0	0	0	0	0	0	1
トルコ	0	0	1	0	0	0	0	1
タヒチ島	0	0	0	0	0	0	1	1
バヌアニューギニア	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	152	12	43	4	6	6	17	240
シェア	63.3	5.0	17.9	1.7	2.5	2.5	7.1	100.0

（注）新聞発表ベース、期間：88年1月～6月

表10 日本企業（非金融機関）の欧州地域別・目的別進出件数

（単位：件）

	生産拠点	販売拠点	サービス拠点	研究開発	企画統括	資源開発	不動産開発	計
イギリス	12	7	3	5	2	0	2	31
西ドイツ	3	9	3	4	2	0	0	21
フランス	2	1	2	1	0	0	2	8
イタリア	4	3	1	0	0	0	0	8
オランダ	1	3	0	1	2	0	1	8
スペイン	1	1	1	0	0	0	0	3
ベルギー	1	0	2	0	0	0	0	3
スイス	0	2	0	0	0	0	0	2
ソ連	1	0	1	0	0	0	0	2
オーストリア	1	1	0	0	0	0	0	2
ポルトガル	0	0	0	0	0	0	1	1
アイルランド	1	0	0	0	0	0	0	1
合 計	27	27	13	11	6	0	6	90
シ ェ ア	30.0	30.0	14.4	12.2	6.7	0	6.7	100.0

（注）新聞発表ベース、期間：88年1月～6月

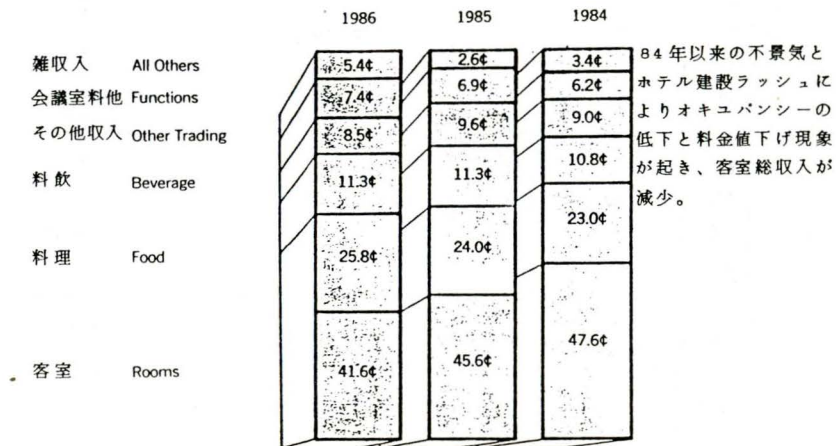
経営研究委員会報告

去る11月度の経営研究委員会においてホテル・ニューオーターニの池井氏の研究発表をお伺い致しました。

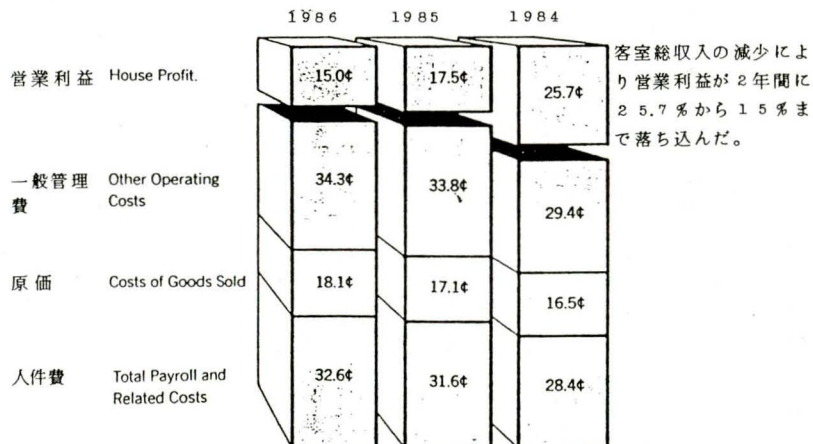
85年不況とホテル建設ラッシュの中でホテルの経費及び営業利益について解り易い解説がございましたので、その一端をご紹介します。

Hotel Revenue Dollar . . . and Where It Went

ホテル収入1ドルに対する各部門別売上分析



ホテル収入1ドルに対する経費及び営業利益



ホテル総室数と入国者数の推移
Hotel Rooms Inventory

Year	ホテル 件数 Hotels	室数 Rooms	室数増加率 % Increase	入国者数 Tourists	入国者数 増加率 % Increase	ホテル オキュ パンシー Hotel Occupancy
1984	51	16,440	13.6%	2.99m	4.8%	75.5%
1985	59	19,018	15.7%	3.03m	1.3%	65.9%
1986	61	22,080	16.1%	3.19m	5.3%	64.7%
1987	65	23,431	6.1%	3.68m	15.2%	68.7%
1988	68	24,142	3%	4.16m (est)	13% (est)	80%
1989	68	24,261	0.5%	4.49m (est)	8% (est)	(予想)
1990	69	24,721	1.9%	4.85m (est)	8% (est)	
1991	69	25,231	2.4%	5.34m (est)	8% (est)	

ホテル建設計画

1990 : The Sentosa

1991 : No new hotels, but Orchard and Hilton expected to add a total of 600 rooms.

84年よりホテルラッシュが始まり87年までの3年間で6,991室増加し、室数増加率は84年から3年間2桁の伸びを示した。
ただし入国者数は84年から3年間、ほぼ横這いとなりホテルのオキュパンシーは80年の86.1を%ピークに86年には64.7%まで落ちこんだ。それに伴ない室料の値下げ競争が行なわれ、室料が最低に落ちこんだ86年にはピークだった83年のほぼ半額までホテルの平均室料が下がった。
87年より景気回復による入国者数の増加と新しいホテルのオープンが一段落したためオキュパンシーが上り始めた。また来年は市場の回復を背景に数年ぶりに室料金の大幅な改正が予想される。

TABLE 31

inventory of gazetted hotel rooms (as at December 1987)

ホテル室数状況

Hotels With 50-200 Rooms	Hotels With 201-400 Rooms	Hotels With More Than 400 Rooms
Asia 146	Amara Singapore 336	Boulevard 529
Bencoolen 69	Apollo Singapore 317	Century Park Sheraton 462
Broadway 62	Crown Prince Singapore 303	Dai-Ichi 420
Cairnhill 195	Dynasty 368	Hilton International Singapore 435
Cockpit International 180	Equatorial 224	Hyatt Regency Singapore 1,088
Duke 164	Excelsior 274	Imperial 527
Great Eastern 151	Furama Singapore 352	Mandarin Singapore 1,075
Ladyhill 170	Garden 216	Marco Polo 603
Lion City 163	Glass 400	Marina Mandarin 557
Metropole 54	Goodwood Park 231	Meridien Singapore 407
Negara 104	Grand Central 355	New Otani Singapore 408
Pasir Panjang 54	Holiday Inn Parkview 307	Novotel Orchid Inn 463
Queen's International 61	King's 319	Oriental Singapore 521
Raffles 124	Meridien Changi Singapore 274	Pan Pacific 794
South East Asia 51	Ming Court 295	Pavilion Inter-Continental 441
Strand 129	Miramar Singapore 346	President Merlin 525
Supreme 86	Orchard Singapore 345	River View Singapore 476
	Paramount 230	Royal Holiday Inn Singapore 543
	Peninsula 308	Sea View 435
	Phoenix 296	Shangri-La 821
	Plaza 353	Tai-Pan Ramada Singapore 410
	Royal 303	Westin Plaza 796
	Sheraton Towers Singapore 331	Westin Stamford 1,253
	York 396	
TOTAL (17) 1,963	TOTAL (24) 7,479	TOTAL (23) 13,989

Hotels opened in 1988

Total Number of Hotels : 67
 Total Number of Rooms : 24,206

Bayview Inn	117
Carton	419
Chateau at Scott	239
	<u>775</u>

会 員 紹 介

*JALCO ELECTRONICS (S) PTE LTD

(ジャルコ・エレクトロニクス・シンガポール社)

所 在 地 : 101 Thomson Road #27-04, United Square, Singapore 1130.

電話 番 号 : 2530233, 2532496, Fax: 2513220.

設 立 : 1987 年 9 月 25 日 (登記)、1988 年 1 月 1 日 (操業)

形 態 : 子会社

代 表 : 谷川 透 (代表取締役)

Mr T Tanigawa (Managing Director)

従業員数 : 3 名日本からの派遣社員 1 名

事業内容 : 取扱品目 : Audio Vedio TV 機構部品

販売先 : 三菱、JVC、東芝、SANYO、MESA、ASAHI、

AIWA SONY、EHE、シャープ

仕入先 : ジャルコ・マレーシア、ジャルコ本社

(会社の特色)

経営理念 : 誠実、創造、挑戦

商品の特徴 : 品質重視

将来の抱負 : シンガポールを各国 (特に東南ア) 各得意先の中継地
区とし、サービス向上を画って行きたい。

*** NIPPON LINER SYSTEM LTD**
Singapore Representative Office
(日本ライナーシステム(株))
シンガポール駐在員事務所)

所在地：20 MaCallum Street #16-01/04, Asia Cambers, Singapore 0106

電話番号：2240564, Tlx: RS 23509, 2257405

設立：1988年11月（登記、操業）

形態：駐在事業所

代表：村田 良治（駐在員）
Mr Y Murata (Representative)

従業員数：日本からの派遣社員1名

事業内容：海運業（定期船専門会社）

山下新日本汽船とジャパンラインとのJ/V社

主要航路：北米、中東、豪州、ニュージーランド、中南米

*** KUSATSU ELECTRIC SINGAPORE PTE LTD**
(草津電機シンガポール)

所在地：5&7 Tuas Avenue 8, Singapore 2263

電話番号：8619081, 8615268, Fax: 8611417

設立：1986年11月（登記）、1987年4月（操業）

形態：子会社

代表：上田 幸夫（代表取締役）
Mr Y Ueda (Managing Director)

従業員数：148名、日本からの派遣社員5名

事業内容：高性能小型電動機（エアコン用ファンモーター、洗濯機用モーター他）の製造・販売。

（会社の特色）

日本国内草津電機グループの先兵として、当シンガポールに来た会社であり、今後、世界へ広く展開する良き拠点になりたい。

理事会の動き

第234回 1989年1月10日(火) 午後12時30分

議事に先立ち、大行天皇のご崩去に哀悼の意を表し、出席者一同が起立し、1分間の黙禱を行った。

次いで、小出副会頭(松下無線機器)並びに高津理事(ヤマハ)からそれぞれご帰国の挨拶があった。

議 事：

1. 前回議事録承認

異議なく承認された。

2. 審議事項

(1) 小出副会頭(松下無線機器)ご帰国に伴う副会頭の選任について

菊池会頭より、後任副会頭の選任について、理事会に先立って開催された運営担当理事会での協議をふまえ、工業部会を代表する立場から三森理事(岡本シンガポール)をご推薦申し上げたい旨の発言があり、一同に諮ったところ、満場一致で承認された。その後、三森・新副会頭がご就任の挨拶があった。

事務局より以下の補足説明を行った。すなわち、本所定款では、会頭及び副会頭の選出は、総会の承認事項である(第57条)と謳われているが、任期途中で空席が生じた場合、理事会において空席を補充するための選出手続が認められており、選出された者は次の年次総会まで当該職務に当る(第59条)こととなっている。

なお、三森副会頭は原則として小出・前副会頭の職務を引続くが具体的には下記の通り。

○運営担当理事会(工業部会の代表)

○VITB(総括)

○NPC(総括)、但し、小出・前副会頭が就任していたNPC・

COUNCIL MEMBER についてはシンガポール政府からの依頼事項でもあるので、JCCI から後任を出すことはできない。従って、現在、NPC・ALTERNATE MEMBER である伊藤理事（日立エレクトロニック・ディバイシズ）にJCCIの代表を兼ねてもらう。

○SMAについては、小出・前副会頭がVICE-PRESIDENTに就任していたが、JCCI事務局よりSMAに小出氏の帰国を知らせる旨のレターを出し、その後のSMAの出方を待つ。

高津理事にお願いしていたSNEF（幹事）及びVITB（幹事）については、他に幹事を務めて頂いている理事がいるので、今回は特に後任を選出しなかった。

3. 報告事項

(1)リー・シェン・ロン通産大臣、リー・ヨク・スアン労働大臣に提出された在星経済11団体の意見書について

事務局より、FWL（外国人労働者税）並びにCPFの雇用者負担分の引上げについて、昨年末、在星経済11団体を代表して標記・両大臣に提出された意見書の仮訳を配布し、説明を行った。（詳細は後掲資料1-1を参照）

すなわち、昨年12月度理事会にて承認されたJCCIのFWL、CPFについての基本的な考え方をSNEF事務局に送付し、その後、標記の意見書が取り纏められた。

意見書の内容はJCCIの考え方を大幅に取り入れられたものとなっており大差はみられない。評価できる点は、今後シンガポール政府が経済政策を大幅に変更しようとする時、一方的に決めるのではなく、経済団体と話し合う機会を設けて欲しいとの要望が盛り込まれていることである。

次いで、今年1月6日、三宅大使、フィリップ・ヨーEDB長官を始めとする政府要人とJCCI代表との早朝ミーティングを開催し、

F W L 並びに C P F について、J C C I の基本見解並びに標記経済団体の意見書を提出した。

会合の中で、政府の考え方を聴くと共に J C C I の工業部会の代表理事から、実施後に予想される労務費コスト増等影響が大きいと考えられるので、特段の配慮を願いたい旨を伝えた。その席上、E D B からシンガポール政府として考えている“ AUTOMATION INCENTIVIES ” (合理化優遇措置) について資料を入手したので、これを仮訳し、理事会資料として配布した。(詳細は後掲資料 1 - 2 参照)

なお、本件は日系企業が当面する喫緊の課題でもあるので、今年 1 月に第一、第二、第三の各工業部会を開催し、部会員に情報を提供すると共に月報の理事会の動きの中で全会員に本件について周知することとなった。

(2) 部会・委員会等開催報告

☆委員会

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 12 月 15 日 (木) | 経営研究委員会 |
| 22 日 (木) | 経営研究委員会・外国人ワーカー作業部
会打合せ |
| 27 日 (金) | 運営担当理事会 |
| 1 月 6 日 (金) | 広報委員会 |
| 10 日 (火) | 運営担当理事会 |

☆懇談会等

- | | |
|---------------|---|
| 12 月 16 日 (金) | MR. K. N. QUEK - EDB SENIOR INDUSTRY OFFICER
他との懇談 |
| 21 日 (水) | 牧戸・名古屋大学教授との懇談 |
| 22 日 (木) | 京都市教育委員会指導事業係長内藤氏及
び山田・京都市立西京商業高等学校・校
長他との懇談 |

- 30日（金） 会議所忘年会
1月 6日（金） EXECUTIVE MEETING
6日（金） EDB 領事・MR TENG 他との夕食懇談会
9日（月） 天皇陛下弔意記帳

(3)その他

①第1回JCCI懇親ゴルフ大会について

現在、会員企業の中で進められている標記ゴルフ大会について、当初考えていた敗者復活戦については諸般の事情から今回は実施せず、次回以降の検討課題として前向きに取り組むこととなった。

②JCCI会員懇親会について

例年3月末の金曜日夕刻に行われている会員懇親会は、今年3月24日（金）がGOOD FRIDAYにあたるため、3月28日（火）を第一候補に準備を進めることとなった。

4. 入・退会

(1)入会（なし）

(2)退会（なし）

(3)1989年1月10日現在の会員数：509社（前月同）

5. 会計報告

1988年12月の会計報告として、高橋財務委員作成の会計報告書を理事会出席者全員に配布した。

リー・シェン・ロン通産大臣、リー・ヨク・スアン労働大臣
に提出された在星経済 11 団体の意見書について（仮訳）

1988 年 12 月 28 日付、在星 11 団体の意見（要望）書が SNEF（SINGAPORE NATIONAL EMPLOYERS FEDERATION）により取纏められ両大臣に送付された。

その内容は、12 月度理事会において JCCI の基本的な考え方として承認されたものとほぼ同様のものである。

すなわち、

- ①外国人ワーカーの数が増えることによる社会コストの負担増についてシンガポール政府が懸念するのはもっともである。
- ②外国人ワーカーに過度に依存することが望ましくないことについて理解できる。
- ③しかし、シンガポリアンが（ナイト）シフトの仕事やオーバータイムを好まなことは事実であり、未熟練或いは半熟練の仕事に就く労働者の絶対数が不足していることは事実である。
- ④以上の事実からシンガポールで事業を営もうとすれば外国人ワーカーに頼らざるを得ないのが実情である。
- ⑤外国人ワーカーを法外なコストでしか雇用できないなら、外国人ワーカーを雇用している企業は、既に限られた労働市場からシンガポリアンを高賃金にて雇用せざるを得なくなる。
- ⑥そうなると、賃金上昇圧力と今以上のジョブ・ホッピングの現象が引き起されることになる。
- ⑦自動化が外国人ワーカーを雇っているすべての企業にとって、今の労働力不足を解消できる手だてとはならない。

多量生産かつ市場競争力や製品企画力に優れた企業であれば経済的にひきあうかも知れないが、多くの企業は合理化のための調整が難しい。さらに、合理化については長期的視点からみなければならない。

⑧ 今回の外国人労働者税及びC.P.F.の雇用者負担部分の引上げが余りにも厳格なものであり、かつまた、時期的に（85年）不況後でもあり、余りにも早過ぎることを懸念する。

⑨ これらの引上げは、予想されるオペレーション・コストや強含みのシンガポール・ドルと合俟って、結果的に国際競争力を損なう原因になりはしないかと考える。すなわち、いかなる（経費負担の）引上げも経済の現状からのみ判断するのではなく、将来を見通した観点から判断を下すべきものである。

⑩ 1989年の経済見通しについて若干の危惧を抱いている。今年は、或る業種、例えばコンピューター関連業界にとって厳しい年になるのではないかと判断している。あらゆるコスト増の集積がシンガポールの国際競争力に悪影響を及ぼし始めようとする時に、経済の立案者が、かなりの精度で経済の先行きを見通すことは非常に困難であると確信する。

この主張は最近の景気後退期に実証されている。

⑪ 1985/1986年の不況期に、政府はプライベート・セクターとの集中的なディスカッションを行った。（その折）このような討議はこれからも続けていくことが述べられている。それ故、今回のF.W.L.及びC.P.F.について事前の協議がなかったことに對し失望している。政府が経済政策を決定するに当たり、ビジネスマンの洞察力とマーケットに対する観察力は重要な入力（情報）源となりうる。ここで我々は、政府に對し、経済政策が実施される前に過去に経験したように、あらゆる方面からの見解が考慮される、有益な討議の機会を再び設けて頂くよう望む。

以下省略

EMPLOYERS' ORGANISATION:

1. AMERICAN BUSINESS COUNCIL
2. BRITISH BUSINESS ASSOCIATION
3. GERMAN BUSINESS GROUP
4. JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY
5. SINGAPORE FEDERATION OF CHAMBERS OF COMMERCE & INDUSTRY
6. SINGAPORE CHINESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY
7. SINGAPORE INDIAN CHAMBER OF COMMERCE
8. SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE
9. SINGAPORE MALAY CHAMBER OF COMMERCE
10. SINGAPORE MANUFACTURERS ASSOCIATION
11. SINGAPORE NATIONAL EMPLOYERS FEDERATION

EDB の自動化優遇措置 (AUTOMATION INCENTIVIES)

1. AUTOMATION FEASIBILITY STUDY SCHEME (AFS)
2. TRAINING GRANTS FOR AUTOMATION ENGINEERS AND TECHNICIANS
3. EXTENDED AUTOMATION LEASING SCHEME
4. INVESTMENT ALLOWANCE SCHEME

以上 1～4 のスキームが 11 月 16 日以降、すなわち、FOREIGN WORKER LEVY, CPF についての政府発表後、EDB から打出された。

以下のその概要を述べる。

1. AFS (自動化実行可能性研究計画)

企業のオートメーション化推進の要請に応じて、AAC (AUTOMATION APPLICATION CENTRE) からコンサルタントを派遣。研究後、企業に対し、どの分野での自動化が可能か通知。

(期 間) 約 2 週間

(補 助) AFC から当該企業に対し、S\$ 1,000 の助成金が出る。
但し、EDB が特に認めた企業に対しては、1989 年に限り無料

(詳細連絡先) AAC・TEL. NO: 7797311
担当: MR HOON BEE KUAN

(多国籍企業に対する特例) 自社のオートメ化のため親企業から専門家を招聘する場合、AFS に準じ、適正経費の 70% まで (上限 5 万ドル) 補助が受けられる。

適正経費の範囲は以下の通り

- フィジビリティ調査期間の専門家のサラリー
通常 2 週間分、最高 4 週間まで
- 往復航空運賃
- ホテル代

但し、調査終了後 1 カ月以内に EDB に対し、その結果の

報告をしなければならない。

申込みは EDB 据え付けの用紙を使用

(連絡先) EDB, AUTOMATION STRATEGIC
BUSINESS UNIT
TEL. NO; 3362288

2. TRAINING GRANTS FOR AUTOMATION ENGINEERS AND TECHNICIANS

オートメ化を有効に機能させるための人材育成面での補助。EDB が
THE INITIATIVES IN NEW TECHNOLOGIES (INTECH) SCHEME プログラムを作成

- オートメ実施のすべての企業が利用可能
- 訓練は国内・外のいずれでも良い
- 補助金の範囲は、サラリー、コース料金、航空運賃、生活費
- 助成範囲は認められたトレーニング・コストの 70 % まで

申込みは EDB 据え付けの用紙を使用

(連絡先) EDB, AUTOMATION STRATEGIC
BUSINESS UNIT
TEL. No: 3362288

3. EXTENDED AUTOMATION LEASING SCHEME (EALS)

オートメ化投資を実施し、生産工程のグレード・アップを奨励するための低率の資金援助策。

これは 1984 年に導入されたオートメーション・リーシング・スキムを拡大したもの。(以前は ROBOT LEASING SCHEME と呼ばれていた)
具体的には、リース、分割払い購入、抵当ローンについての資金援助。

(利 率)

ALS (AUTOMATION LEASING SCHEME)
の下では中小

- ┌ 中小企業に対し、3.5 % (年率)
- └ 他は 4.5 % (同)

但し、1989 年については特例として

※ EALS の下で

中小企業に 2.0 %、その他に 3 % が適用される。

※特に、人手削減、生産性向上に有効であると認められた合理化設備
に対してのみ適用。

他の、設備投資については ALS を適用する。

(連絡先)

ROBOT LEASING & CONSULTANCY PTE LTD

3 LIM TECK KIM ROAD # 10-01

STC BUILDING

SINGAPORE 0208

TEL. NO: 2259555

4. INVESTMENT ALLOWANCE SCHEME

合理化投資をさらに魅力あるものとするため、最大限 50 % の投資ア
ローアンスが認められる。

但し、これは人手削減、生産性向上に大きく貢献する合理化投資につ
いてのみ適用される。

申込み用紙・申請は下記連絡先。

(連絡先)

EDB, TEL NO: 3362288

12月の主な経済記事

- 12月13日 • シンガポール労働省は外人労働者への依存を軽減するため、パート・タイム労働者の雇用を奨励する方針で、目下新措置を立案中である。

▲パート、総労働人口の4～5%

労働省スポークスマンが10日、語ったところによると、シンガポールにおけるパート・タイム労働者は総労働人口中わずか4～5%を占めるに過ぎず、米国の30～40%の比べ極めて低い。

これは、今日の雇用法がパート・タイム労働者の労働条件、例えば超勤手当、休日、年次休暇等についてハッキリした条文規定を行っていないため、雇用主がその雇用をしていることが一因となっているとみられる。

▲女性8100人がパート希望

労働省の88年度労働力調査報告書によると、今日、経済的に不活発な労働適齢人口中の2万9400人が、向こう12カ月以内に就職口を探す意思を表明している。このうち2万400人が女性で、うち8100人がパート・タイム労働を希望している。しかし、これらの女性は、仕事の場所、時間、待遇等の面で満足いく条件が備わることを望んでいる。そして、これらパート志望女性の希望する平均給与は月額300Sドルだった。

▲女性就業率47.8%、インド人が最高

女性の就業率（15歳以上の現在就業している、もしくは積極的に就職口を探している経済的に活発な女性の15歳

以上全女性人口中の比率)についてみると、80年の44.3%から88年の47.8%に上昇している。人種別にみると、インド人女性の就業率が最も高い。また、マレー人女性の就業率は最も低いばかりでなく、就業率の下降傾向も生じている。

1980～88年の人種別就業率の動きをみると、インド人女性が43%から51.7%に、華人女性が44.6%から47.3%にいずれも上昇、マレー人女性は45%から43.4%に下降している。

女性の年齢別就業率をみると、人種を問わず、20～24歳の間にピークに達し、以後、下降傾向を辿る。但しインド人女性の場合には22～24歳、35～39歳、45～49歳の間に何波かに分かれて、就業率の高まりが生じている。

▲男性高齢者の就業率は下降

55歳以上の男性の就業率は、80年当時に比べかえって下降している。55～59歳の男性の就業率は、80年には73.2%にのほっていたが、今年は65.1%に下降、60歳以上の男性のそれも39.8%から31.1%に下降している。

シンガポール労働人口の老齢化は年々顕著になっており、経済的に活発な国民人口の平均年齢は、80年の29.1歳から今年の32.6歳に上昇している。こうした中で、60歳への定年延長が求められているが、60歳定年制を導入しているのは全企業の20%に満たない状況である。

▲労働人口の51%が中卒以上

しかし、労働者の教育水準は向上しており、中学以上の教育を受けた者の割合は、1978年の37%から今年の51%に拡大している。

今年6月末現在のシンガポールの労働人口は128万人で、昨年同期比2.4%増加、失業率は昨年の4.7%から今年の3.3%に下降している。

- 14日
- ピート・マーウィック・マネジメント・コンサルタンツ (PMMC) が行った幹部職員の給与に関する調査によると、シンガポールの管理職と専門職の今年の年間給与は昨年に比べ平均9%増加している。この昇給率は、一般職員のその約2倍という。

なおP Aコンサルティング・サービシーズ (PACS) も先月民間部門の一般職員と管理職の給与に関する調査を行ったが、同調査では今年のこれらの労働者の昇給率は4~5%と予想されている。PACSは来年の昇給率を6.7%と見込んでいる。またヘイ・マネジメント・コンサルタンツ (HMC) は来年の昇給率を7%と予測している。

PMMCによると、当地の管理職と専門職に対する需要が逼迫しているため、来年もこれら労働者の給与は上昇すると言う。管理職及び専門職の今年の昇給率を職種別に見ると、会計監査役が19.3%と最高で、以下コンピューター・オペレーターの16.7%、技術担当営業部長の16.5%、シニア・コンピューター・オペレーターの15.9%、プロダクト・マネージャーの13.3%、プログラマー／アナリストの13.0%と続く。

PMMCのエグゼクティブ・リクルート部門のスポークスマンによると、会計監査役は企業経営上重要なポストで、今後ますます需要が高まると見られるが、同僚の会計事務の誤りを探すという仕事の性質上、マイナスのイメージがあるため、同ポストのリクルートは容易ではないという。会計監査役の年棒は、約3万3000 Sドルのレベルから始

まり、わずかの間に6万5000Sドルのレベルに跳ね上がるという。

またPMMCの同調査によれば、今年最も昇給率が低かった職種はエディターの2.0%であった。なおエディターより若干昇給率が高かったのは公報担当課長(3.3%)、人事(3.9%)、コーポレート・プラナー(4.8%)、人事課長(4.8%)であった。

なお同調査は、企業87社の66のポストを対象に今年10月に実施されたものという。(BT12月13日；下表参照)

幹部職員の昇給率(1988年)	
最高レベル	%
会計監査役	19.3
コンピュータ・オペレーター	16.7
技術担当営業部長	16.5
シニア・コンピュータ・オペレーター	15.9
プロダクト・マネージャー	13.3
プログラマー/アナリスト	13.0
最低レベル	
人事課長	4.8
コーポレート・プラナー	4.8
人事部長	3.9
公報課長	3.3
エディター	2.0

資料：ヒート・マーケティング・マネジメント・コンサルティング

15日 • 当地金融業界の新卒者初任給は、国内の業界のトップに立っている。

 ピート・マーウィック・マネジメント・コンサルタン(PMMC)が最近行った大卒者の初任給に関する調査によると、今年金融業界に就職した新卒者の初任給は、専攻学部とオナーズ・ディグリーを取得したか否かによって多少異なるが、年間1万7400 Sドル～1万9650 Sドルの間である。同部門に就職している新卒者の中でも、コンピューター・サイエンスを専攻した者の初任給が最高く、同学部のオナーズ・ディグリー取得者が年間1万9650 Sドル、ゼネラル・ディグリー取得者が同1万8075 Sドルとなっている。以下経営学、商学／財政学、人文／社会科学と続く。

 一方、製造、貿易、建設、サービス等のその他の業界に就職した新卒者の初任給を見ると、電子・電気技術を専攻した新卒者の初任給が最も高く、オナーズ・ディグリーを取得した者で1万7290 Sドル、ゼネラル・ディグリーを取得した者で1万6200 Sドルとなっている。

 これらの業界に就職した新卒者の中で、最も初任給が低いのは科学系の学課を専攻した者で、オナーズ・ディグリーを取得した者でも1万5990 Sドルにとどまっている。しかし、こうした学科の専攻者でも金融部門に就職した者の初任給はオナーズ・ディグリー取得者で1万8800 Sドルにのぼっている。

 PMMCのスポークスマンによると、金融部門に就職している者は他の部門の就職者に比べ有給休暇、ボーナス、ローン・スキーム等の条件も良いという。同スポークスマンは、金融部門の待遇が他の業界に比べてより魅力的

な理由として、同部門がこれまでに実現した安定した高い成長率を挙げている。（BT12月14日；下表参照）

《新卒者の初任給（年俸）》

金融部門（トップ4）		
専攻学部	オナース・ティク・リー	セ・ネラル・ティク・リー
コンピュータ・サイエンス	\$ 19,650	\$ 18,075
経営	\$ 19,000	\$ 18,880
商業／財政	\$ 18,800	\$ 18,200
人文・社会科学	\$ 18,800	\$ 18,200
一般産業（トップ4）		
電子・電気エンジニアリング	\$ 17,290	\$ 16,200
エンジニアリング（その他）	\$ 17,300	\$ 14,965
コンピュータ・サイエンス	\$ 15,925	\$ 14,250
サイエンス（その他）	\$ 15,990	\$ 14,070

ソース：ピート・マウウィック・マネジメント・コンサルティング

- 世界銀行（WB）発行の“ワールド・バンク・アトラス（1987）”最新号は、1987年のシンガポールの1人当たりの国民総生産（GNP）が、7940 USドルと世界21位にランクされたとレポートしている。

WBの同レポートによれば、昨年（1986年）のシンガポールの1人当たりのGNPは、世界第26位だった一昨年の7450 USドルを上回っている。

1980年代の初め（1980年）の1人当たりGNPは4420 USドルのレベルだったが、1980年から87年の7年間に5.6%拡大した。また1986年から1987年の1年間の成長率も7.3%を記録した。もし、こうした高成長が今後も持続すれば、1980年代の終わりには、当地の1人当たりのGNPは80年代初期の2倍以上になる。

シンガポールの1人当たりのGNPはこのように成長しているとはいえ、トップ・スリーのスイス（2万1250 US

ドル)、米国(1万8430 USドル)、ノルウェー(1万7110 USドル)に比べるとなお2分の1以下である。また当地の1人当たりのGNPは日本、スウェーデン、アラブ首長国連邦、カナダ、デンマークのほぼ2分の1になっている。

<世界の国民1人当たりのGNP>



国または地域	国民1人当たりの GNP (1987)	ランキング	
		1987	1980
Switzerland	US\$21,250	1	3
United States	US\$18,430	2	9
Norway	US\$17,110	3	5
Japan	US\$15,770	4	18
Sweden	US\$15,690	5	4
United Arab Emirates	US\$15,680	6	1
Canada	US\$15,080	7	13
Denmark	US\$15,010	8	7
Kuwait	US\$14,870	9	2
West Germany	US\$14,460	10	6
Finland	US\$14,370	11	15
France	US\$12,060	12	10
Austria	US\$11,970	13	17
Netherlands	US\$11,860	14	12
Belgium	US\$11,360	15	11
Australia	US\$10,900	16	14
Britain	US\$10,430	17	19
Italy	US\$10,420	18	21
Hongkong	US\$8,260	19	27
New Zealand	US\$8,230	20	20
Singapore	US\$7,940	21	26

資料：ワールド・バンク・アトラス（1983年、1988年）

- 19日
- 貿易開発局 (T D B) は目下、経済開発庁 (E D B) 及びジュロン・タウン開発公社 (J T C) と共同で、多国籍企業と地元企業のタイへの投資を支援するための措置を検討している。

関係筋によると、J T C が先ずタイ側と協力してタイ国内に工業団地を設立し、その後当地製造業者等の同工業団地への進出を奨励する、という案が有力となっている。

シンガポールに子会社を設けている一部の多国籍企業が最近相次いでタイに工場を設立しているが、政府当局はこうした中でこれらの多国籍企業に支援サービスを提供している地元企業のタイ進出を促進する方針を打ち出した。地元企業が多国籍企業に従ってタイへ進出すれば、多国籍企業とのビジネスを確保できるだけでなく、さらにタイ市場を開拓することも可能である。

一方、T D B が貿易機会を創出する投資活動を促進するため設立した T D B ホールディング Pte Ltd (TDBHPL) 社は目下、日本企業と提携して日本国内にジョイント・ベンチャーを設立することを計画している模様である。

関係筋によると、TDBHPL 社がこうした方式で日本に投資する目的の 1 つは地元企業に先進国への投資の模範を示すことにある。従って最初の段階では効果的な日本投資の方式に対する地元企業の理解を深めることに重点が置かれるという。

ちなみに TDBHPL 社は民間企業と協力して新規市場を開拓し、国際貿易を拡大する目的で今年 9 月に設立された新会社である。

広 報 欄

** CHANGE OF ADDRESS & TELEPHONE NO.

* SHOWA LEASING (SINGAPORE) PTE LTD

24 Raffles Place ~~#~~29-01/03
Clifford Centre
Singapore 0104
Tel: 5331400
Tlx: RS 28182 SLSIN
Fax: 5357590

* JIJI PRESS LTD

10 Anson Road # 24-16A
International Plaza
Singapore 0207
Tel: 2244212
Tlx: RS 28538 JIJISP
Fax: 2240711

* NIKKEI SHOJI CO., LTD

(Singapore Representative Office)
10 Anson Road # 10-13A
International Plaza
Singapore 0207
Tel: 2212077, 2212078
Fax: 2216340

** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE

* MATSUSHITA ELECTRONICS (S) PTE LTD

From Mr Koide to Mr F Ostubo

* KOMATSU SINGAPORE PTE LTD

From Mr H Ohkado to Mr E Shimada

～お詫びと訂正～

本所会員名簿 (Page 107)

Sime Diamond Leasing (Singapore) Pte Ltd の代表者の
お名前が間違っておりましたので、ここにお詫び申し上げま
すとともに訂正させていただきます。

(訂正前) (訂正後)
山下 健 → 下山 健

資料案内

国内一般

シンガポール共和国移住法	-----	S\$15
民事法	-----	S\$ 5
刑法（暫定規定法）	-----	S\$10
公益事業法	-----	S\$10
貿易開発委員会	-----	(会 員) ----- S\$ 5
	-----	(非会員) ----- S\$ 8

投資関係

法律15号（経流拡大奨励法改正法）1979年	-----	S\$ 5
経済拡大奨励（所得税免除）法〈改訂版・原文付〉	-----	(会 員) ----- S\$30
	-----	(非会員) ----- S\$35
経済拡大奨励（所得税免除）法1987年改正法	-----	(会 員) ----- S\$10
	-----	(非会員) ----- S\$20
法律（改正）時報第21号（経済拡大奨励法及び所得税法改正法）	-----	S\$ 5

租税・税制

法律第2号共和国所得税法改正（1973年）	-----	S\$ 5
法律第13号共和国所得税法改正（1977年）	-----	S\$ 5
法律第17号共和国所得税法改正（1980年）	-----	S\$ 5
法律第20号共和国所得税（改正）令	-----	S\$ 5
シンガポールとの租税（所得）条約	-----	S\$ 5
シンガポールの租税	-----	S\$20
所得税法〈改訂版〉	-----	(会 員) ----- S\$30
	-----	(非会員) ----- S\$40
所得税法・1985年改正法	-----	S\$ 5
所得税法1986年・1988年改正法	-----	(会 員) ----- S\$15
	-----	(非会員) ----- S\$25
シンガポールとの租税（所得）条約〈改訂版〉	-----	(会 員) ----- S\$20
	-----	(非会員) ----- S\$30
関税法（第133 編）関税令〈1985年版〉	-----	(会 員) ----- S\$15
	-----	(非会員) ----- S\$20

会社法

法律第1号（共和国会社法改正）1970年	-----	S\$ 5
法律第4号（共和国会社法改正）1974年	-----	S\$ 5
法律19号1980年中央厚生年金法告示（付表の入替）	-----	S\$ 5
法律16号（会社の買収及び合併に関する）	-----	S\$ 5
シンガポール共和国会社法	-----	(会 員) ----- S\$60
	-----	(非会員) ----- S\$70
会社法・1984年改正	-----	(会 員) ----- S\$30
	-----	(非会員) ----- S\$40
シンガポール共和国憲法（再版）	-----	(会 員) ----- S\$10
	-----	(非会員) ----- S\$15
憲法改正法（1984, 1985年）	-----	S\$ 5
国会議員選挙法（再版）	-----	(会 員) ----- S\$10
	-----	(非会員) ----- S\$15
事業登記法（1973年法律第36号）	-----	(会 員) ----- S\$15
	-----	(非会員) ----- S\$20
買収および合併に関する基準	-----	S\$20

為替管理・関税

法律時報第6号	S\$ 5
金融業者法	S\$10
財務諸表公開原則	S\$20

業種別規則

法律第18号工場法改正法(1973年)	S\$ 5
大気汚染防止法	S\$15

特許・商標・その他

シンガポール共和国特許(実施権)法	S\$ 5
シンガポール共和国商標法	S\$10
価格規則法	S\$ 5
1975年水質汚染規則制及排水法	S\$10
1971年海洋汚染防止法	S\$ 5
印刷・出版業者法	(会 員) S\$ 2
	(非会員) S\$ 3
ホテル法	(会 員) S\$ 5
	(非会員) S\$ 8

労働関係

労働組合法(1977年)	S\$10
法律第3号(共和国労働雇用法改正)1970年	S\$ 5
法律(改正)時報(第25号)1981年中央厚生年金法(付録入替)告示	S\$ 5
法律(改正)時報(第26号)1981年雇用(年間賃金勧告)告示	S\$ 5
法律(改正)時報第22号(雇用法並びに労働者補償法)	S\$ 5
法律(改正)時報第23号(中央厚生年金法改正法)	S\$ 5
労働雇用法(1976年幼少年雇用規則)	S\$ 5
法律(改正)時報第24号(中央厚生年金改正法)	S\$ 5
法律(改正)時報第27号(中央厚生年金法を改正する法律)	S\$ 5
シンガポール共和国雇用法(改訂版)	(会 員) S\$20
	(非会員) S\$30
中央厚生年金法(改訂版)	S\$ 5
労働三法(雇用法・組合法・関係法)	S\$30

商工会議所出版物

業種別会員名簿(1987/1988年)	(会 員) S\$15
	(非会員) S\$30
月報(各月号)	S\$ 8
1987年度賃金改訂、最近の労働条件及び 福利厚生等の実態に関する調査報告書	(会 員) S\$25
	(非会員) S\$50
シンガポールにおける企業経営ガイド	(会 員) S\$20
	(非会員) S\$30

編集後記

月報の編集は約20名の広報委員が2〜3名ずつの組みで担当します。担当者はどのようなテーマが良いかを色々な角度から検討し、選択してそれを広報委員会に計り、了承を得るとテーマに対して最も適当と思われる著者を選びお願いするわけです。興味あるもの、タイミングの良いもの、最近取上げられてないもの、そして商工会議所の月報として格調の高いもの等々、テーマの選定に担当者は頭を悩ませます。しかし1月号の担当に当たった時だけはほっとします。毎年の恒例で年頭初感のオンパレードであり、テーマに苦戦する事がないからです。今年も三宅大使はじめ多くの方々から初感、随想を頂きました。

また年頭を飾る経済記事としては「円高定着後の直接投資動向」を野村総研の手柴氏より、「経営研究委員会の報告」をホテル・ニュ・オータニの池井氏より頂きました。大変ありがとうございました。

正月に一時帰国しました。会社の先輩の机上に「青春」と言う詩を見つけました。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞ましき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

会員の皆様、今年も一年健康で青春しようではありませんか！

担当 戸頃・重盛

MONTHLY REVIEW

STRICTLY MEMBERS ONLY



PSA CONTAINER YARD (PASIR PANJANG)

M. C. I. (P) No. 8 / 4 / 88

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

10 SHENTON WAY #12-04/05/06 (12th Storey) MAS BUILDING SINGAPORE 0207

COVER : PRINTED BY
TOPPAN PRINTING CO., (S) PTE., LTD.
TEXT : PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.
155 Kallang Way #02-11/12
Singapore 1334. TEL : 2923831